FUJIFILM

DIGITAL CAMERA

FinePix 2900Z

使用説明書

この説明書には フジフイルムデジタルカメラファインピックス2900Zの使い方がまとめられています。内容をご理解の上、正しくご使用ください。

目　次

1
2
3
4
5

はじめに

ご使用の前に必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。

■撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能するかを事前に確認してください。

＊本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得るであろう利益の喪失など）については補償いたしかねます。

■著作権についてのご注意

あなたがデジタルカメラで記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像やデータの記録されたメモリーカード（スマートメディア）の伝送は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用いただけませんので、ご注意願います。

■液晶について

液晶表示パネルが破損した場合、中の液晶には十分注意してください。万一以下の状態になったときは、それぞれの応急処置を行ってください。

- **皮膚に付着した場合：**
  付着物をふき取り、水で流し、石けんでよく洗浄してください。
- **目に入った場合：**
  きれいな水でよく洗い流し、最低15分間洗浄したあと、医師の診断を受けてください。
- **飲み込んだ場合：**
  水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を飲んで吐き出したあと、医師の手当を受けてください。

■ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

- 本カメラは第2種情報処理装置（住宅地域またはその隣接した地域において使用されるべき情報装置）で、住宅地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）基準に適合しています。しかし本カメラをラジオ、テレビジョン受信機に近づけてお使いになると、受信障害の原因となることがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- この機器を飛行機や病院の中で使用しないでください。
  使用した場合、飛行機や病院の制御装置などの誤作動の原因となることがあります。

■製品の取り扱いについて

本製品は、精密な電子部品で構成されておりますので、画像記録中にカメラ本体に衝撃を与えると、画像データが正常に記録されないことがありますのでご注意ください。

■商標について

- iMac、Macintoshは、Apple Computer, Inc.の商標です。
- Windowsは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- SmartMediaは株式会社 東芝の商標です。
- その他の社名と商品名は各社の商標または登録商標です。

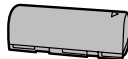
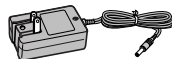
カメラの特長 / 付属品

主な特長

● 230万画素CCDとフジノン3倍ズームレンズによる超高画質
● 記録画素数 最大1,800×1,200ピクセル
● マグネシウム合金製スタイリッシュボディー
● 2インチ13万画素低温ポリシリコンTFT液晶
● 広範囲な撮影領域（マクロ機能付）/ オートフォーカス
● 高精度でワイドレンジな調光が可能なオートストロボ
● 充実したマニュアル撮影機能（マニュアル露出/絞り優先AE/長時間シャッター/測光モード切り換え/マニュアルフォーカス）
● ホットシュー搭載で外部ストロボ対応
● 秒3コマの連写機能（640×480ピクセルモード）
● バランスの良い構図で撮影ができるベストフレーミング機能
● 手軽に画像加工がその場で楽しめるエフェクト機能
● マップビューワー機能
● モードダイヤルと十字ボタンによる簡単操作
● 大容量メモリーカード・スマートメディア™対応
● 充電式リチウムイオンバッテリー採用
● 撮影日時の記録・再生機能
● パソコンとの画像データの送受信が可能なPCモード
● デジタルカメラの業界統一規格DCF*準拠
　＊DCFは日本電子工業振興協会（JEIDA）で制定された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。
● DPOF（Digital Print Order Format）対応でプリント注文が簡単に

※インターフェースバリューセット IF-VS1やフロッピーディスクアダプター FD-A2B、イメージメモリーカードリーダー SM-R1、PCカードアダプター PC-AD3Bを使えばパソコンとの連携も一層便利です。

付属品

●充電式バッテリー NP-80 容量1,100mAh（1本）

●ACパワーアダプター AC-5V
接続コード：約2m（1台）

●ハンドストラップ（1本）

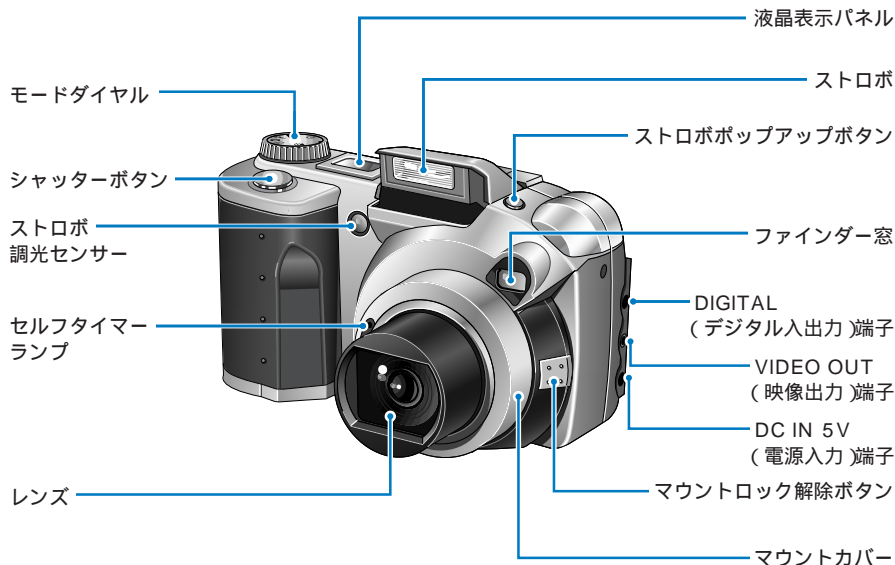
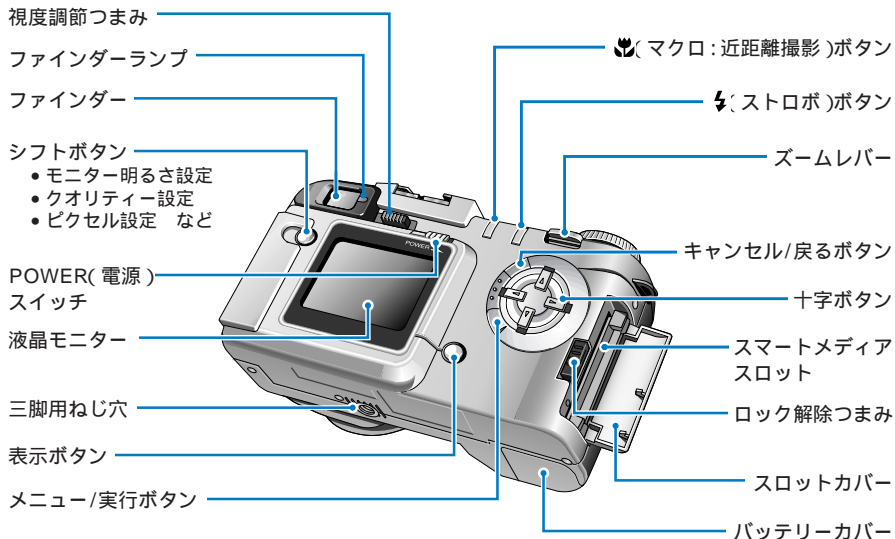
●レンズキャップ（1個）

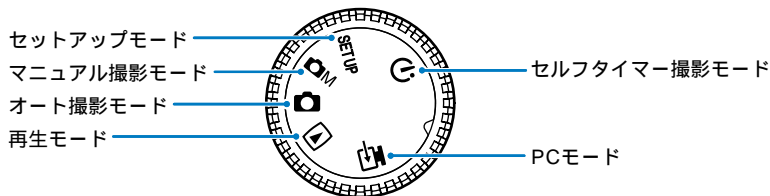
●ビデオケーブル
φ3.5mmミニプラグ×ピンプラグ：約1.5m（1本）

●安全上のご注意（1部）
●使用説明書（本書1部）
●NP-80・AC-5V 使用説明書（1部）
●保証書（1部）

各部の名称

液晶表示パネル
ストロボ
モードダイヤル
ストロボポップアップボタン
シャッターボタン
ストロボ
調光センサー
ファインダー窓
DIGITAL
（デジタル入出力）端子
セルフタイマー
ランプ
VIDEO OUT
（映像出力）端子
DC IN 5V
（電源入力）端子
レンズ
マウントロック解除ボタン
マウントカバー

視度調節つまみ
ファインダーランプ
ファインダー
シフトボタン
• モニター明るさ設定
• クオリティー設定
• ピクセル設定　など
POWER（電源）
スイッチ
液晶モニター
三脚用ねじ穴
表示ボタン
メニュー/実行ボタン
（マクロ：近距離撮影）ボタン
（ストロボ）ボタン
ズームレバー
キャンセル/戻るボタン
十字ボタン
スマートメディア
スロット
ロック解除つまみ
スロットカバー
バッテリーカバー
POWER

各部の名称

モードダイヤル

：**セルフタイマー撮影モード（➡56ページ）**
約10秒のセルフタイマー撮影ができます。

SETUP ：**セットアップモード（➡58ページ）**
クオリティー、ピクセル、シャープネス、オートパワーオフ、 LCD、コマNo.メモリー、ビープ♪（ブザー音）、日時、リセットの設定が行えます。

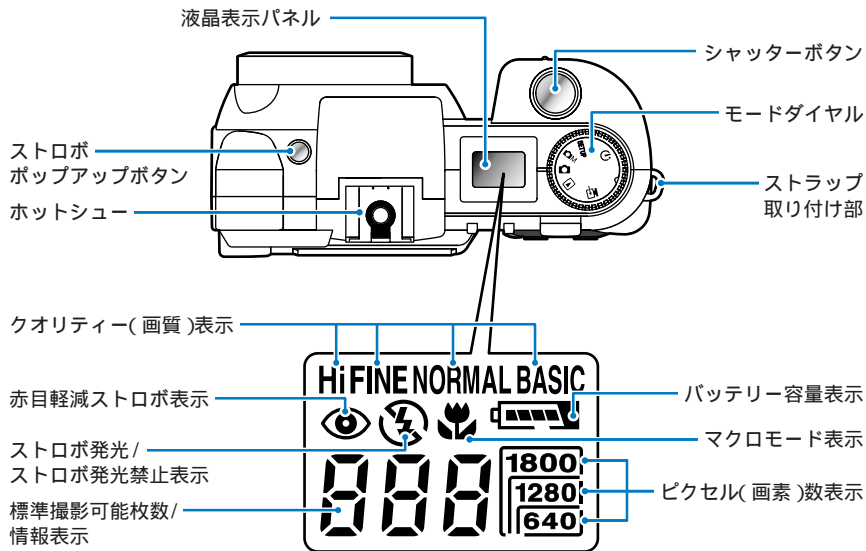
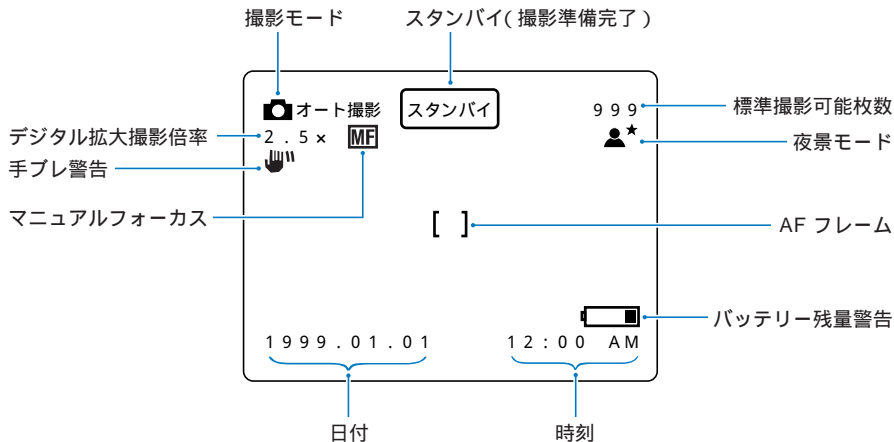
M ：**マニュアル撮影モード（➡48ページ）**
撮影画像を確認したあとに記録できます。またホワイトバランス、明るさ露出補正、マニュアル露出、ストロボの明るさ補正、測光モード、連写の設定ができます。

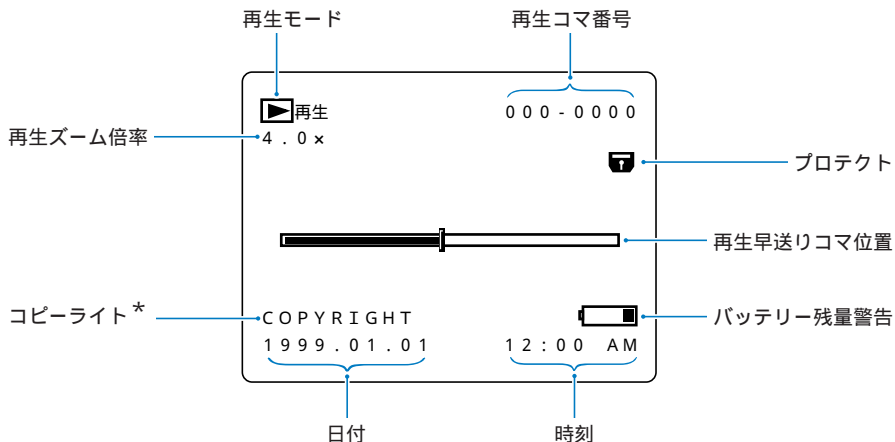
：**オート撮影モード（➡24ページ）**
撮影状況に応じて露出などをカメラが自動的に制御する、簡単で使いやすい撮影方法です。

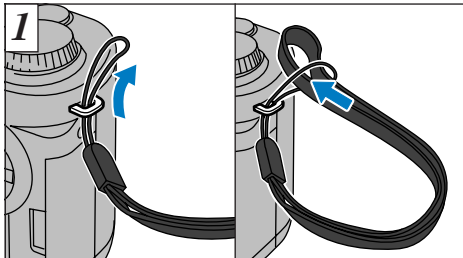
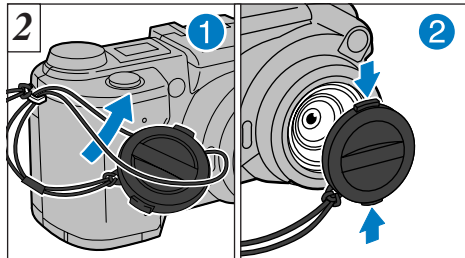
：**再生モード（➡32、61ページ）**
通常の1コマ再生の他に再生ズーム、マルチ再生ができます。その他、コマの消去やフォーマット、エフェクト、オートプレイ、リサイズ、プロテクト、DPOF、マップビューワー機能（地図再生）の設定ができます。

：**PCモード（➡93ページ）**
インターフェースバリューセット IF-VS1（別売）を使って、パソコンに画像を取り込むときに使用します。

上面/液晶表示パネル

液晶表示パネル
シャッターボタン
モードダイヤル
ストロボ
ポップアップボタン
ホットシュー
ストラップ
取り付け部
クオリティー（画質）表示
Hi FINE NORMAL BASIC
赤目軽減ストロボ表示
バッテリー容量表示
マクロモード表示
ストロボ発光/
ストロボ発光禁止表示
1800
1280
640
ピクセル（画素）数表示
標準撮影可能枚数/
情報表示

液晶モニターの文字表示例：撮影

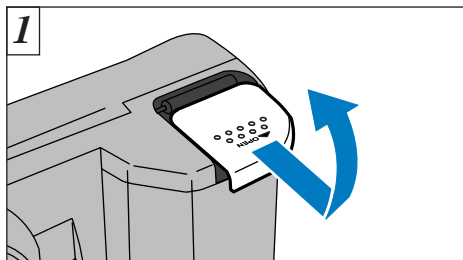
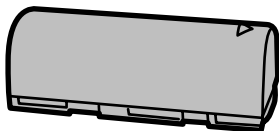
液晶モニターの文字表示例：再生

＊コピーライトは、別売インターフェースバリューセット IF-VS1に付属のソフトウェアで、著作権情報を入力したカメラで撮影した画像のときに表示されます。詳しくはソフトウェアに付属の使用説明書をご覧ください。

ストラップとレンズキャップを取り付けます

ストラップの小さい方の輪を、ストラップ取り付け部に通します。
次に大きい方の輪の端を、小さい方の輪の中に通して引っ張ります。

❶ レンズキャップのヒモを、ストラップ取り付け部に通して引っ張ります。
❷ レンズキャップは上下をつまんで取り付け、取り外します。

- レンズキャップをなくさないように、ヒモを取り付けることをおすすめします。
- 撮影するときは必ずレンズキャップを外してください。

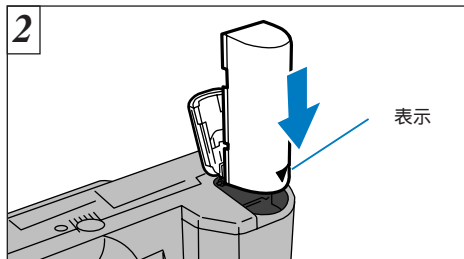
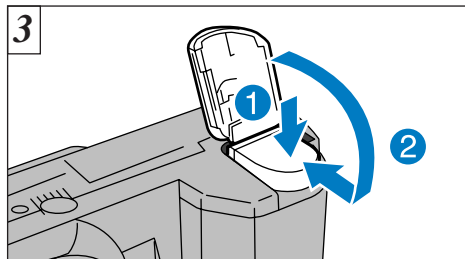
バッテリーを入れます

使用するバッテリー

充電式バッテリー NP-80
（容量1,100mAh）1本

バッテリーカバーを矢印方向にスライドさせてから開けます。

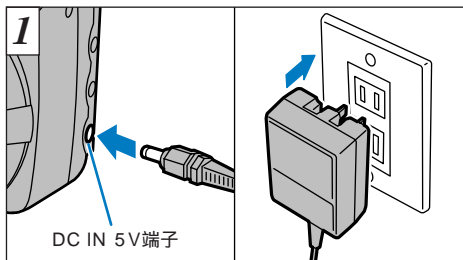
- 工場出荷時にバッテリーはフル充電されていません。お使いになる前に必ず充電してください。
- バッテリーについて、詳しくは104、113ページをご参照ください。

- バッテリーカバーに無理な力を加えないでください。
- バッテリーを交換するときは、必ず電源を切ってください。電源を切らずにバッテリーカバーを開けると、各種設定が工場出荷設定に戻ることがあります。

バッテリーを入れます

バッテリーの“▼”表示がある側からバッテリーを入れ、奥まで押し込んでください。

❶バッテリーを押し込みながら❷バッテリーカバーを閉めます。

❗バッテリーを入れる方向にご注意ください。金色の端子のある側からバッテリーを入れます。

バッテリーを充電します

ACパワーアダプターの使いかた

カメラの電源が切れていることを確認してから、ACパワーアダプターの接続プラグをカメラの“DC IN 5V端子”に差し込みます。その後、ACパワーアダプターを電源コンセントに差し込みます。

! 接続プラグがカメラに正しく差し込まれていないと、充電されません。

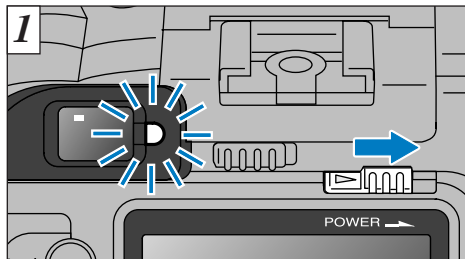
約3秒後にファインダーランプが橙色に点灯し、充電が開始されます。充電が完了するとファインダーランプが消灯します。

! 使いきったバッテリーの充電時間は約8時間です。
! フル充電に近いバッテリーは充電しませんが故障ではありません。
! 充電中に電源を入れると、充電が中断されます。

1

◆ACパワーアダプター◆

ACパワーアダプターは必ず専用の「AC-5V」をお使いください。
＊ACパワーアダプターについて、詳しくは105ページをご参照ください。

電源のON/OFF

電源を入/切するには、電源スイッチを矢印方向にスライドさせます。電源を入れるとファインダーランプ[緑]が点灯します。

オートパワーオフ機能(➡58ページ)有効時は、電源を入れたまま約2分間放置すると、電源が自動的に切れます。

電源を入れ、バッテリー容量表示を確認します。

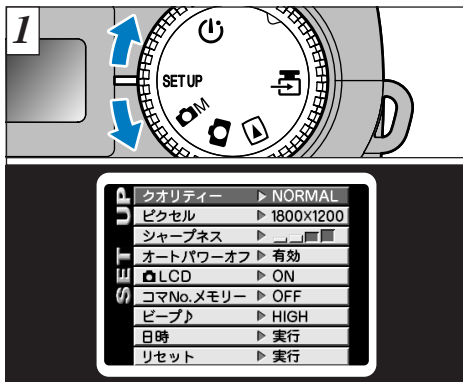
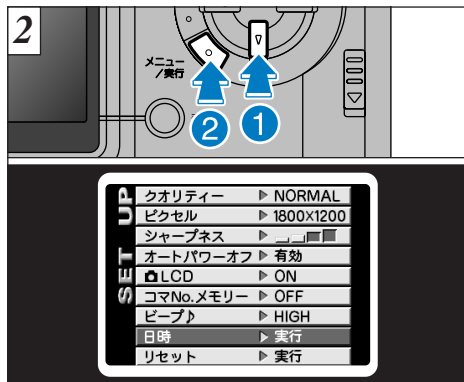
❶バッテリーの容量は十分です。

❷バッテリーの容量が不足しています。まもなく電源が切れますので、バッテリーを交換するか充電をおすすめします。

❸バッテリーの容量がありません。表示が消えて動作を終了します。バッテリーを交換するか充電をしてください。

- 撮影モード"📷、📷M、⏱"で電源を入れるとレンズ部が動きますので、手で押さえないでください。
- 表示ボタンを押しながら電源を入れると、オープニング画面の表示/非表示が切り換えできます。
- 操作をする前に電源を入れてください。

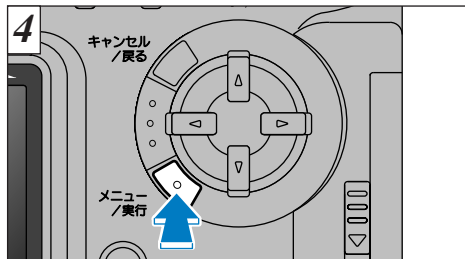
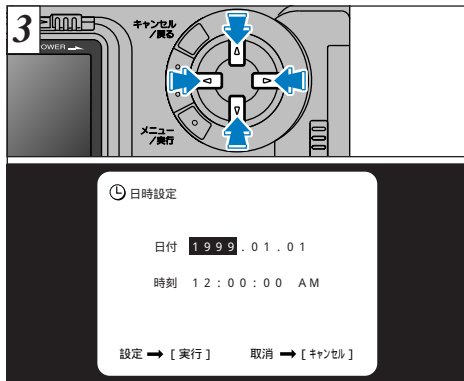
- 液晶モニターの日時が点滅表示された場合は、日時を設定してください(➡次ページ)。

日時の合わせかた

モードダイヤルを“ SET UP ”に合わせ、SET UP画面を表示します。

❶十字ボタンの“ ▼ ”を押して“ 日時 ”を選択し、❷“ メニュー/実行 ”ボタンを押します。

❗ SET UPモードのメニューについて、詳しくは58ページをご参照ください。

❗ 設定した日時は、ACパワーアダプターを接続またはバッテリーを入れて約1時間以上経過していれば、カメラからバッテリーを取り出しても、約1時間保持されます。

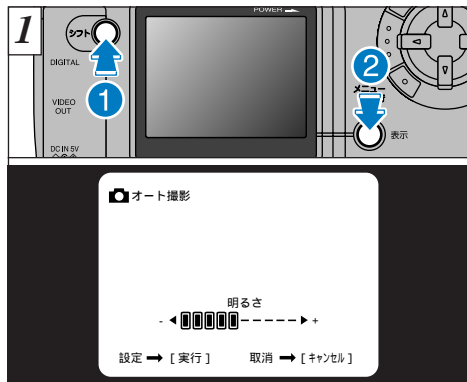
1

十字ボタンの“ ◀ ▶ ”を押して合わせたい項目（年・月・日・時・分）を選び、“ ▲ ▼ ”を押して修正します。

合わせ終わったあと、“ メニュー/実行 ”ボタンを押して設定します。

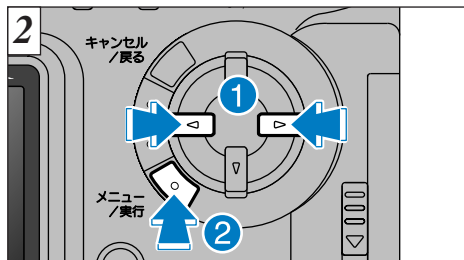
❗ 秒は設定できません。

❗ 時刻表示で“ 12:00:00 ”を越えると、自動的にAM/PMが切り換わります。

❗ 時報に正確に合わせたいときは、時報のゼロ秒時に“ メニュー/実行 ”ボタンを押します。

液晶モニターの明るさ調節

モードダイヤルを“ 📷 、📷M 、⏲ 、▶ ”にすると設定を変更できます。❶“ シフト ”ボタンを押しながら❷“ 表示 ”ボタンを押すと、明るさ調節画面が表示されます。

❗“ シフト ”ボタンを押すと操作ガイダンス（“ シフト ”ボタンを押して実行できる操作の説明）が表示されます。

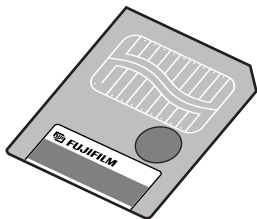
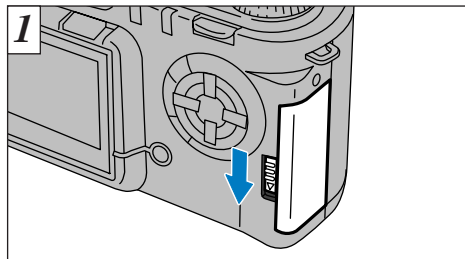
❗液晶モニターがOFFのままでは設定を変更できません。

❶十字ボタンの“ ◀ ▶ ”を押して明るさを調節します。❷“ メニュー/実行 ”ボタンを押して決定します。

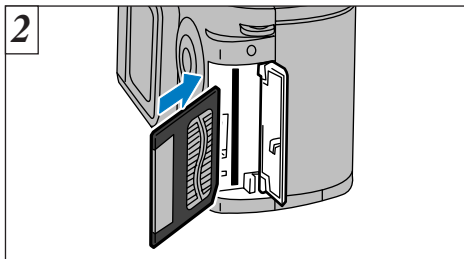
❗設定を変更しない場合は、“ キャンセル/戻る ”ボタンを押してください。

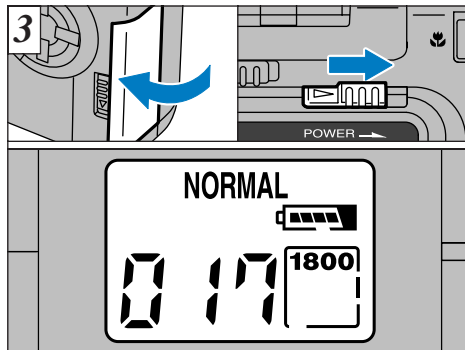
1

スマートメディア™をセットします

スマートメディア™

スマートメディアは必ず3.3V仕様をお使いください。
MG-4SB(4MB)・MG-8SB(8MB)・MG-16SB(16MB)・MG-32SB(32MB)

- 5V仕様のスマートメディアは使用できません。
- ライトプロテクトシールがはられていると、記録、消去ができません(➡74ページ)。
- 本カメラでの動作保証は弊社製スマートメディアのみとなります。
- 3.3V仕様品の中には「3V」という表示のものがあります。
- スマートメディアについて、詳しくは106ページをご参照ください。

1 **電源が切れていることを確認し、スロットカバーのロックを外します。**

- 電源が入った状態でスロットカバーを開けると、スマートメディア保護のため、自動的に電源が切れます。

カメラとスマートメディアの向きを図のようにして、スマートメディアスロットにスマートメディアを確実に奥まで差し込みます。

❗ スマートメディアの向きが間違っていると奥まで入りません。また、スマートメディアに無理な力を加えないでください。

スロットカバーを閉めて電源を入れると、液晶表示パネルに標準撮影可能枚数が表示されます（“ 📷 、📷M 、⏲ ”設定時）。

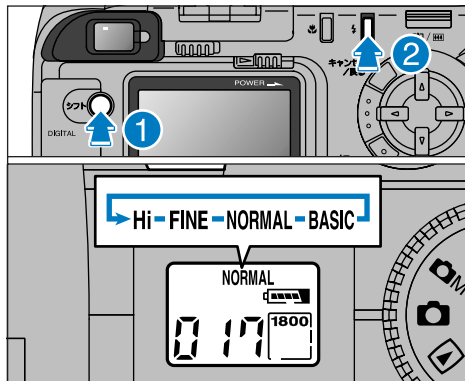
❗ 被写体（画像の細かさなど）によって記録されるデータ量が一定ではないため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。

❗ 液晶モニターに“ ! CARD ERROR ”が表示された場合は、まずスマートメディアの接触面（金色の部分）を乾いた柔らかい布などで軽くふいてから、再度セットしてください。また、スマートメディアのフォーマットが必要な場合があります（➡64ページ）。

クオリティー 設定

撮影の目的に合わせて、4種類の画質（記録画像の圧縮率）を選べます。
画質（クオリティー）によって標準撮影可能枚数が変わります。スマートメディアの標準撮影枚数については112ページをご参照ください。
画質を優先する場合は［FINE］を、枚数を優先する場合は［BASIC］を選んでください。
非圧縮の画像が必要な場合に［Hi］を選びます。
通常の撮影では［FINE］で十分な高画質が得られます。

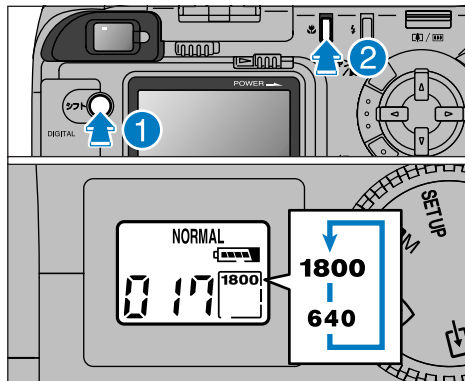
●記録ファイル形式
Hi　　：非圧縮TIFF-YC（Exif Ver.2.1）形式
FINE/NORMAL/BASIC
**　　　：JPEG準拠圧縮（Exif Ver.2.1）形式**

＊［Hi］で撮影した画像は、別売インターフェースバリューセット IF-VS1（➡93ページ）に付属のアプリケーションPICTURE SHUTTLE、別売アプリケーションSD-U3/PICTURE SHUTTLE Pro（➡102ページ）で閲覧、加工ができます。その他のソフトでは開けないことがあります。

❶“シフト”ボタンを押しながら❷“ ⚡ ”ストロボボタンを押すと、4種類の画質［Hi］［FINE］［NORMAL］［BASIC］を切り換えることができます。変更後の設定は液晶表示パネルに表示されます。

❗ モードダイヤルが“ 📷 、📷M 、⏲ ”のときに設定を変更できます。
❗ 液晶モニターがONの場合、“シフト”ボタンを押すと操作ガイダンスが表示されます。

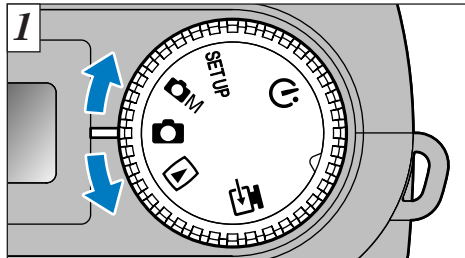
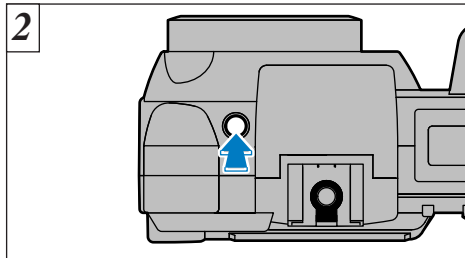
ピクセル設定

撮影の目的に合わせて、2種類の画素数（ピクセル/画像サイズ）を選べます。画素（ピクセル）数によって標準撮影可能枚数が変わります。スマートメディアの標準撮影枚数については112ページをご参照ください。

- **1800 ：1,800×1,200ピクセル**
- **640 ： 640× 480ピクセル**

❶“ シフト ”ボタンを押しながら❷“ ”マクロボタンを押すと、2種類の画素数［1800］［640］を切り換えることができます。変更後の設定は液晶表示パネルに表示されます。

! モードダイヤルが“ 、 M、 ”のときに設定を変更できます。

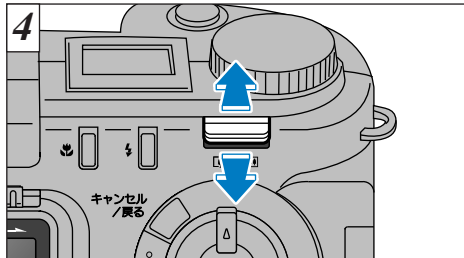
! 液晶モニターがONの場合、“ シフト ”ボタンを押すと操作ガイダンスが表示されます。

さあいよいよ撮影です(オート撮影)

モードダイヤルを" "に合わせます。

ストロボポップアップボタンを押してストロボをセットします。

● **ストロボ撮影可能距離**
広角側：0.4m〜3.5m
望遠側：0.4m〜2.5m

- 液晶モニターの日時が点滅表示された場合は、日時を設定してください(➡17ページ)。
- ファインダーを使った撮影は43ページをご参照ください。
- レンズが汚れていないか確認してください。汚れている場合は103ページを参照してレンズをきれいにしてください。

- オート撮影する場合、必ずストロボをポップアップしてください。ストロボを閉じたままでは、ストロボは発光しません。
- ストロボを使用しない場合は、ストロボを押し下げて閉じてください。

ストラップに手首を通し、液晶モニターを正面から見るように、脇をしめて両手でカメラを構えます。

被写体を大きく写したいときは、ズームレバーを上に動かします。広い範囲を写したいときは、ズームレバーを下に動かします。

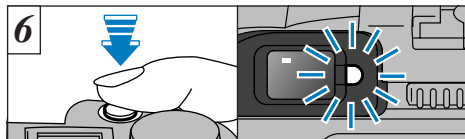
❗ レンズやストロボ、ストロボ調光センサーに、指やストラップがかからないようにしてください。指やストラップがかかると、適正な光量調整ができないことがあります。

❗ 撮影するときカメラが動くと、画像がブレる原因となります。

❗ 35mmカメラ換算で焦点距離約35mm～105mmの3倍ズームです。電源を入れたときのレンズ位置は約80mmです。

AFフレーム

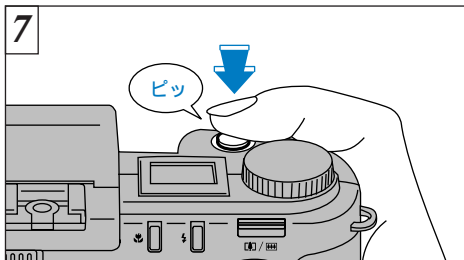
液晶モニターを見ながら、被写体がAF（オートフォーカス）フレーム全体を満たすようにねらいます。

❗ 液晶モニターが見にくい場合は、液晶モニターの明るさを調節してください（➡19ページ）。

シャッターボタンを半押しして液晶モニターに“ スタンバイ ”と表示（ファインダーランプ［緑］が点滅から点灯）されれば、ピント合わせは完了です。

❗ シャッターボタンを全押しした場合は“ スタンバイ ”は表示されません。

❗ 90cm以内に近づくと“ スタンバイ ”と表示されてもピントが合いません。その場合は“ 🌷 ”マクロモードで撮影してください（➡40ページ）。

❗ 暗くてピントが合わない場合は、マニュアルフォーカスで撮影してください（➡41ページ）。

7

半押しのままさらにシャッターボタンを押すと、“ピッ”と音が鳴り撮影されます。続いてデータが記録されます。

- データ記録中はファインダーランプが橙色に点灯し、撮影することはできません。また、データ記録中は電源を切ったり、スロットカバーを開けないでください。
- ストロボ充電中はファインダーランプが橙色に点滅します。
- 被写体（画像の細かさなど）によって記録されるデータ量が一定ではないため、記録後の標準撮影可能枚数が減らないか、または2コマ減る場合があります。
- 警告表示については、108ページをご参照ください。

◆オートフォーカスの苦手な被写体◆

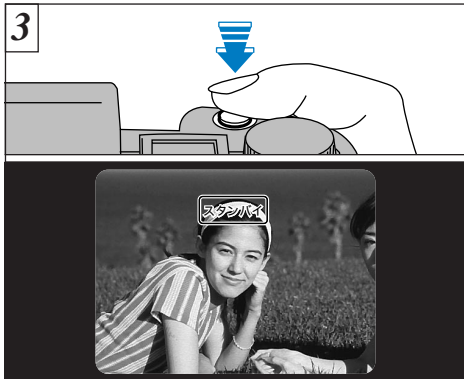
このカメラは、正確なオートフォーカス機構を採用していますが、次のような条件・被写体に対してはオートフォーカスが働きにくく、ピントが合わない状態で撮影されることがあります。このような場合は、マニュアルフォーカス（➡41ページ）をお使いください。

- 高速で移動する被写体
- 鏡・車のボディーなど光沢があるもの
- ガラス越しの被写体
- 髪の毛や毛皮のように光を反射しにくいもの
- 煙や炎などのように実体のないもの
- 被写体が遠くて暗いとき
- 被写体の明暗差がはっきりしないとき（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）
- 被写体の手前や後方に物体が共存するとき（オリの中の動物や木の前の人物など）

2

AF（オートフォーカス）ロック撮影

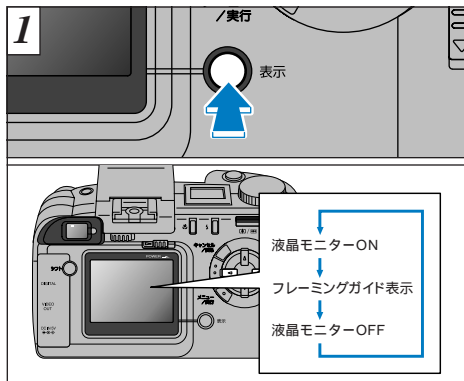
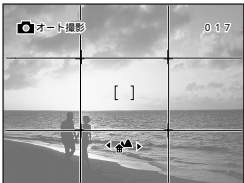
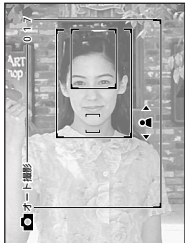
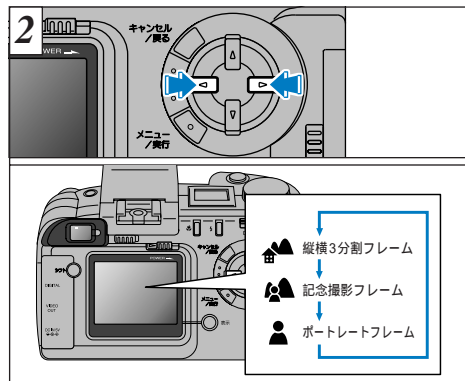
このような構図では被写体（この場合は人物）がAFフレームから外れています。

被写体がAFフレームに入るようにカメラを少し動かします。

そのままシャッターボタンを半押し（AFロック）し、液晶モニターに“ スタンバイ ”と表示（ファインダーランプ［緑］が点滅から点灯）されるのを確認します。

シャッターボタンを半押し（AFロック）のまま最初の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押します。

- AFロック操作は、シャッターを切る前なら何回でもやり直せます。
- AFロック撮影は、どのような撮影方法でも有効です。AFロックをうまく活用しましょう。

2

ベストフレーミング機能

モードダイヤルが“ 、 ”では、“ 表示 ”ボタンを押すごとに液晶モニターの表示が切り換わります。“ 表示 ”ボタンを押して“ フレーミングガイド ”を表示します。

十字ボタンの“ ◀ ▶ ”で３種類のフレーミングガイドを選択できます。フレーミングガイドは液晶モニターで撮影するときに、構図を決める際のめやすとなります。

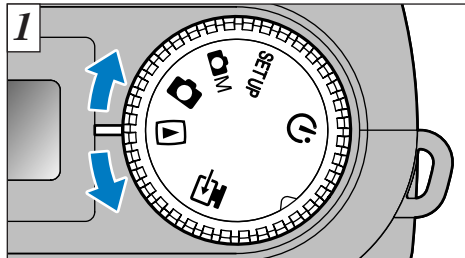
! フレーミングガイドは画像に記録されません。

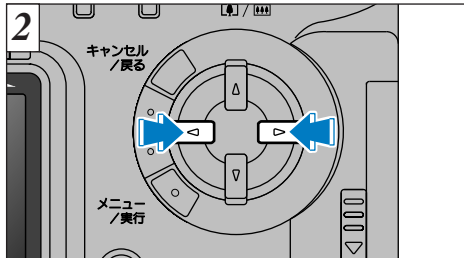
縦横3分割フレーム	記念撮影フレーム	ポートレートフレーム （人物縦位置撮影フレーム）
主要な被写体を縦横の交点に配置したり、横のラインに地平線や水平線を合わせて使用します。 被写体の大きさやバランスを見ながら、躍動感のある構図で撮れるもっとも応用の効くフレームです。	2人以上の記念撮影に使用します。 被写体をフレームの中にできるだけ大きく配置すると、表情をはっきり写し込んだ写真になります。 	ポートレート撮影の基本的な撮影に使用します。 顔の大きさを各フレームに合わせることにより、大きなフレームはアップ、中ぐらいのフレームは胸から上、小さなフレームは半身の撮影になります。

縦横3分割フレームのラインは、縦横の記録画素数の3分割のめやすです。プリントすると、3分割の位置から少しずれる場合もあります。

◆重要◆

必ずAFロックを使って構図を決めてください。
AFロックをしないとピントが合わないことがあります。

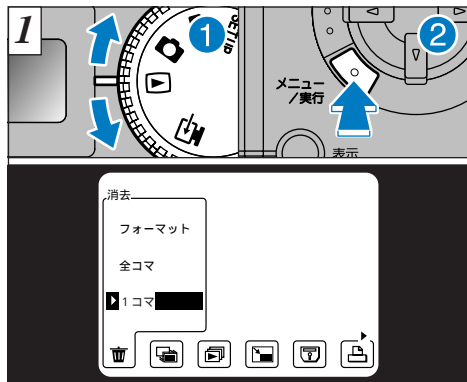
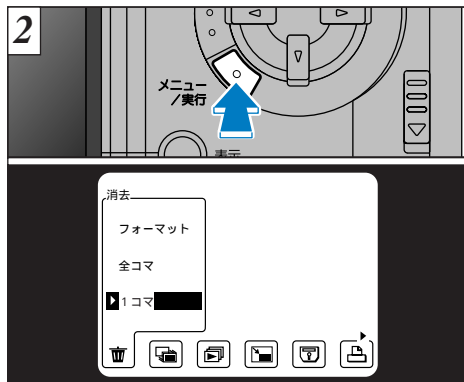
▶ 画像を見るには（再生）

モードダイヤルを“ ▶ ”に合わせます。

- モードダイヤルを“ ▶ ”に合わせたときは、最後に撮影した画像が表示されます。
- このとき液晶表示パネルには“ Pb ”（プレイバック）と表示されます。
- 液晶モニターが見にくい場合は、液晶モニターの明るさを調節してください（➡19ページ）。
- 表示ボタンを1回押すと、液晶モニターの文字表示が消えます。

十字ボタンの“ ▶ ”順送り、“ ◀ ”逆送りで画像を見ることができます。

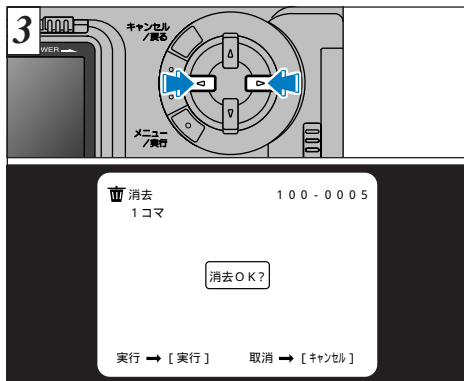
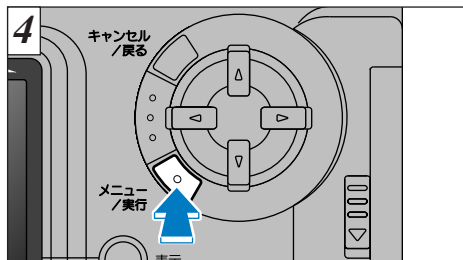
- “ ◀ ▶ ”を約3秒間押し続けると、液晶モニターに早送り“ ━━━━┿━━━━ ”の表示が出ます。

◆再生できるデータについて◆

本機で記録した画像データ、または弊社製デジタルカメラ ファインピックスシリーズ、クリップイット80/50、DS-30/20/10およびDS-250HD/260HDで、3.3V仕様のスマートメディアに記録した画像データが再生できます。

▶ ➡ 🗑 画像を消すには（1コマ消去）

❶モードダイヤルを“ ▶ ”に合わせ、❷“メニュー/実行”ボタンを押すと液晶モニターにメニューが表示されます。

“ 🗑 消去”の“1コマ”が選択された状態で、“メニュー/実行”ボタンを押します。

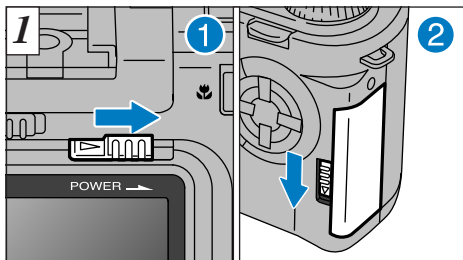
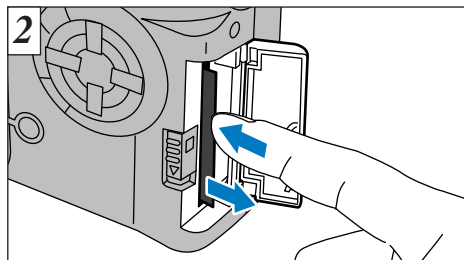
再生モードのメニューについて、詳しくは64ページ以降をご参照ください。

2

十字ボタンの“ ◀ ▶ ”を押して消去したい画像を表示します。

“ メニュー/実行 ”ボタンを押すと、表示している画像が消去されます。消去が終わると次の画像が再生され、“ 消去OK? ”が表示されます。

❗途中でキャンセルしたい場合は、“ キャンセル/戻る ”ボタンを押してください。

❗消去を続けるには、「3」からの操作を繰り返します。

❗“ PROTECT ”が表示された場合、プロテクトを解除する必要があります（➡71ページ）。

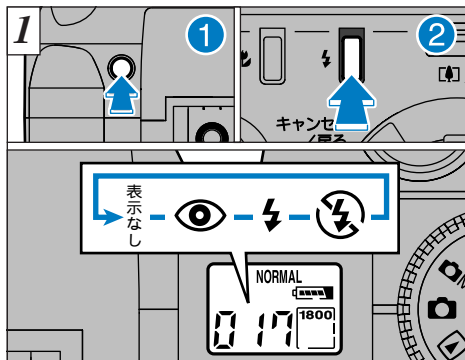
スマートメディア™を取り出します

①ファインダーランプが緑色に点灯していることを確認し、電源を切ります。
②スロットカバーのロックを外します。

スマートメディアを「軽く押し込む」と、スマートメディアが少し飛び出しますので、簡単に取り出せます。

❗スマートメディアを保管するときは、必ず専用の静電気防止ケースに入れてください。

❗電源を切らずにスロットカバーを絶対に開けないでください。スマートメディア、または画像データが破壊されることがあります。

◆画像のプリントとパソコンへの取り込みについて◆

- プリントするときは、75、91ページをご参照ください。
- パソコンに画像を取り込むには、91、93〜97ページをご参照ください。

2

ストロボモード

❶ストロボをポップアップすると、撮影の目的に合わせて4種類のストロボモードが選べます。

❷"⚡"ストロボボタンを押すたびに、液晶表示パネルにAUTO（表示なし）→👁→⚡→⊘の順に表示され、最後に表示したモードが選択されます。

! ストロボを閉じているときは発光しません。液晶表示は"⊘"になります。

! 夜景モード（スローシンクロ）は39ページをご参照ください。

オートストロボモード（表示なし）

特別な撮影意図のない一般的な撮影に使用します。撮影状況に応じて、ストロボが自動的に発光します。

赤目軽減ストロボモード

暗いところでひとみを自然に撮りたいときに使用します。
撮影前にストロボが1回プレ発光し、2回目に撮影のためのストロボが発光します。

◆赤目現象について◆

人物を暗いところでストロボ撮影した場合、目が赤く写ることがあります。これは、ストロボの光が目の中で反射することにより起こる現象です。赤目を起こりにくくするために、赤目軽減ストロボモードを積極的にご利用ください。
赤目軽減ストロボモードを使用するとともに、

- 撮られる人にカメラの方に視線を向けてもらう
- なるべく近付いて撮影する

などするとより効果的です。

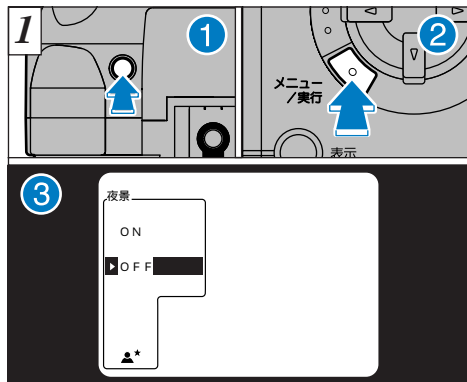
強制発光（日中ストロボ）モード

窓際や木陰などの逆光撮影、蛍光灯などの照明の下で適正な色に撮りたいときに使用します。明るいところでもストロボ撮影が行われます。

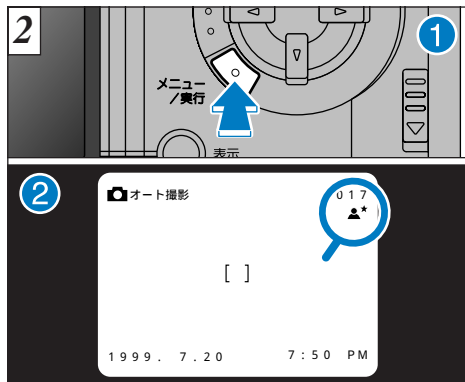
ストロボ発光禁止モード

ストロボの発光を禁止します。
室内照明を利用しての撮影、舞台や室内競技などのストロボ光が届かない距離での撮影などに使用します。この場合、オートホワイトバランス（➡114ページ）が働き、周囲光の雰囲気を残しつつ自然な色に撮ることができます。

- 暗い場所で発光禁止モードで撮影する場合は、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。
- 手ブレ警告については、47ページ、109ページをご参照ください。

夜景モード（スローシンクロ）

スローシャッターのストロボ発光モードになり、夜景と人物をきれいに撮影することができます。モードダイヤルが“ 、 ”のときだけ使用できます。

① ストロボをポップアップします。
② 実行ボタンを押すと、メニューが表示されます。
③ 十字ボタンの“▲▼”で設定を切り換えます。

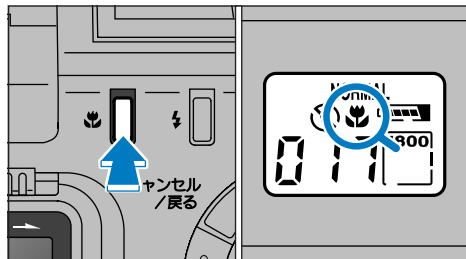
! 夜景モードを使用しない場合は、OFFを選んでください。

① ‘ON’を選んで実行ボタンを押します。
② 液晶モニターに“ ”マークが表示されます。

! スローシャッターになりますので、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。
! ストロボをポップアップした状態で電源を切っても、設定は保持されます。
! ストロボを閉じると夜景モードは解除されます。再度設定してください。

3

マクロモード（近距離撮影）

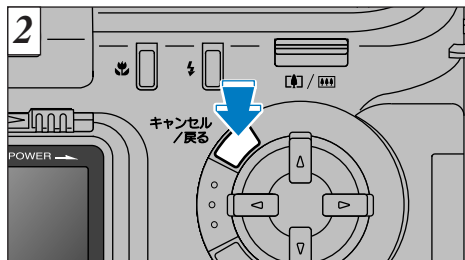
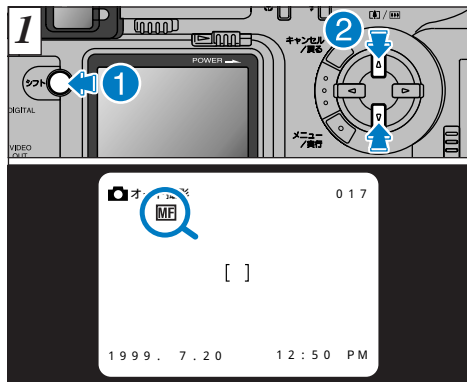
マクロモードでは、約25cm〜90cmの範囲で近距離撮影ができます。また、ストロボは自動的に“ 発光禁止 ”に設定されます。

＊暗い場所で撮影する場合は、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。
＊ストロボを発光させる場合はストロボをポップアップし、“ ”ストロボボタンを押して“ 赤目軽減 ”または“ 強制発光 ”に設定してください。ストロボの明るさの補正は、マニュアル撮影モード（➡53ページ）で可能です。また、オートストロボモードは使用できません。

“ ”マクロボタンを押すと液晶表示パネルに“ ”が表示され、マクロモードになります。もう一度“ ”マクロボタンを押すと、マクロモードが解除されます。

! 液晶モニターは自動的にONになります。
! マクロモードでファインダーを使うと、ファインダー窓とレンズの位置が違うため、実際に見える範囲と写る範囲にズレが生じます。そのため、液晶モニターを使った撮影をおすすめします。
! マクロモードを解除すると、ストロボはマクロモードにする前に設定していたモードに戻ります。

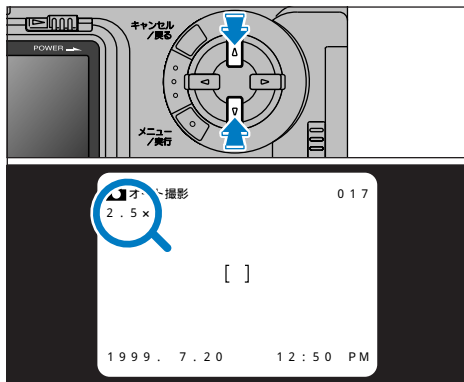
マニュアルフォーカス

AFでピントが合わない場合や、AFの苦手な被写体（➡27ページ）を撮影する場合に使います。撮影時（ファインダー撮影を除く）に❶"シフト"ボタンを押しながら❷"▲"を押すとピントを遠くに、"▼"を押すとピントを近くに、手動でピント合わせを行えます。液晶モニターには"MF"マークが表示されます。

! マニュアルフォーカスを設定すると"📷、📷M、🕓"に切り換えても"MF"が保持されます。

マニュアルフォーカスを解除するには、"キャンセル/戻る"ボタンを押します。液晶モニターから"MF"マークが消えて、通常どおりAFが働きます。

! ピントを合わせてからズームを行うとピントがずれます。

! ピントが合わせにくいときは、デジタル拡大を使用してピントを合わせることができます（➡42ページ）。撮影時はデジタル拡大を解除してから撮影してください。

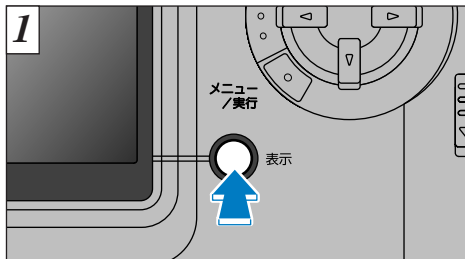
3

デジタル拡大撮影

撮影時（すべての撮影モード）に、十字ボタンの“ ▲ ”を1回押すと1.2倍、もう1回押すと2.5倍に画面中央部分を拡大して撮影することができます。拡大倍率は液晶モニターに表示されます。“ ▼ ”を2回押すと、通常の撮影に戻すことができます。

- ピクセル設定が［1800］でデジタル拡大撮影した場合、1.2×で1,280×1,024ピクセル、2.5×で640×480ピクセルで記録されます。
- ピクセル設定が［640］の場合は、拡大撮影しても記録画素（ピクセル）数は変化しません。

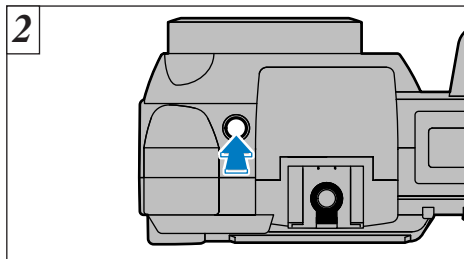
! 液晶モニターが“ OFF ”のときには、デジタル拡大撮影はできません。

! ピクセル設定［1800］のときの倍率は、縦方向のピクセル数を基準としています。

ファインダー撮影（省電力撮影）

撮影時（マクロ撮影を除く）に"表示"ボタンを押して、液晶モニターをOFFにします。液晶モニターONの場合と比べ、バッテリー撮影可能枚数が約2.5倍になります（➡113ページ）。

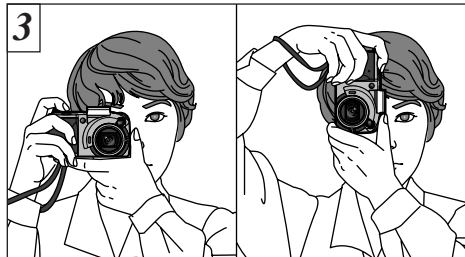
ストロボポップアップボタンを押して、ストロボをセットします。

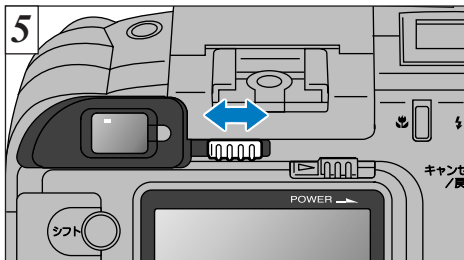
● ストロボ撮影可能距離
広角側：0.4m～3.5m
望遠側：0.4m～2.5m

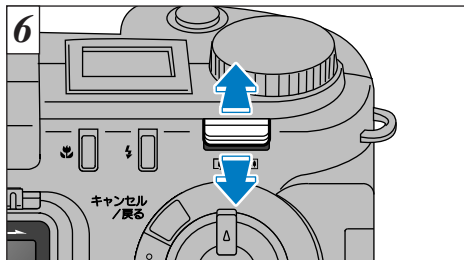
3

! 約90cm～無限遠の撮影が可能です。約90cmより近づいた撮影にはマクロモードを使用してください（➡40ページ）。

! レンズが汚れていないか確認してください。汚れている場合は103ページを参照してレンズをきれいにしてください。

! オート撮影する場合、必ずストロボをポップアップしてください。ストロボを閉じたままでは、ストロボは発光しません。

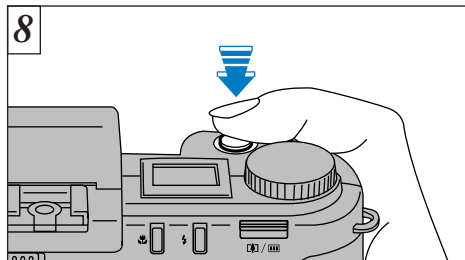
! ストロボを使用しない場合は、ストロボを押し下げて閉じてください。

ストラップに手首を通し、両脇をしめ、両手でしっかり構えます。縦位置撮影ではストロボが上にくるように構えます。

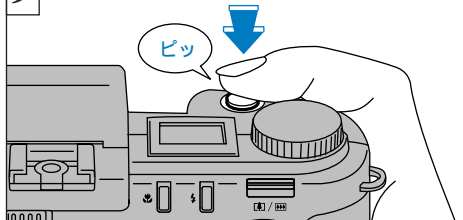
レンズ、ストロボ調光センサーやストロボに、指やストラップがかからないようにしてください。

〈視度調節〉

ファインダーをのぞいてピントが合わない場合は、望遠側ズームにしてファインダーをのぞき、約3mの距離の被写体にピントが合うように視度調節つまみを動かして、ピントを合わせます。

被写体を大きく写したいときは、ズームレバーを上に動かします。広い範囲を写したいときは、ズームレバーを下に動かします。

35mmカメラ換算で焦点距離約35mm～105mmの3倍ズームです。電源を入れたときのレンズ位置は約80mmです。

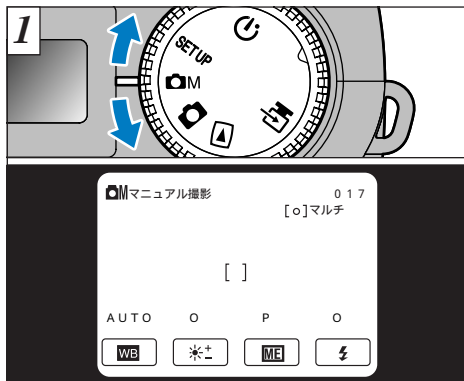
❶ **ファインダーをのぞき、中央付近に被写体がくるようにねらいます。**
❷ **被写体までの距離が約90cm〜1.5mの場合、図の▭アミの部分が撮影されます。**

❗撮影範囲を正確に合わせたい場合は、液晶モニターを使った撮影をおすすめします。
❗被写体が中央付近から外れてしまう場合は、AFロック撮影を行ってください(➡28ページ)。

シャッターボタンを半押ししてファインダーランプ[緑]が点滅から点灯に変われば、ピント合わせは完了です。

❗画像データ記録中はファインダーランプが橙色に点灯し、撮影することはできません。また、データ記録中は電源を切ったり、スロットカバーを開けないでください。
❗ストロボ充電中はファインダーランプが橙色に点滅します。

半押しのままさらにシャッターボタンを押すと、“ピッ”と音が鳴り撮影されます。続いて画像データが記録されます。

◆ファインダーランプ表示について

色	状 態	内　容
緑	点 灯	準備完了
	点 滅	AF・AE動作中または手ブレ・AF警告・AE警告
橙	点 灯	スマートメディアに記録中、バッテリー充電中
	点 滅	ストロボ充電中
赤	点 滅	●スマートメディアについての警告 未挿入、未フォーマット、フォーマット異常、ライトプロテクトシールがはられている、空き容量がない、スマートメディア異常 ●バッテリー充電動作異常 ●レンズ動作異常 ＊液晶モニターONでは、液晶モニターに詳しい警告が表示されます（➡108ページ）。

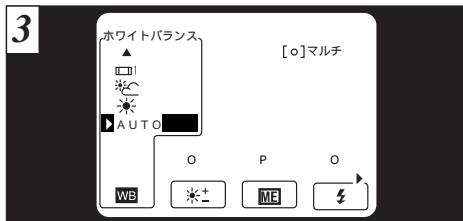
M マニュアル撮影

モードダイヤルを" M "に合わせます。設定メニューが表示されます。

十字ボタンの" ◀ ▶ "でメニューを移動し、" ▲ ▼ "で設定します。

◆工場出荷設定

メニュー	設定値
WB ホワイトバランス	AUTO
アカルサ露出補正	0
ME マニュアル露出	P / AUTO
ストロボの明るさ補正	0 / 内蔵
[o] 測光	マルチ
レンシャ（連写）	OFF

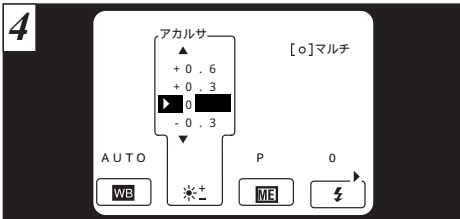
＊上記設定はオート撮影と同等の設定です。

" 表示 "ボタンを押すと、映像が消えて設定メニューのみ表示されます。もう一度押すと映像が表示されます。

WB ホワイトバランス

撮影時の環境・照明光に合わせ、ホワイトバランスを固定して撮影を行いたい場合に設定を変更します。
AUTO時は、人物の顔アップなどの被写体や特殊な光源下では、正しいホワイトバランスが得られない場合があります。その場合は光源に合わせたホワイトバランスを選択してください。
ホワイトバランスについては114ページをご参照ください。

すぐ撮影したい場合は、“ メニュー/実行 ”ボタンを押して決定してください。

AUTO ：**自動調整（光源の雰囲気を残した撮影）**
：**晴れた屋外での撮影**
：**日陰での撮影**
1 ：**昼光色蛍光灯下での撮影**
2 ：**昼白色蛍光灯下での撮影**
3 ：**白色蛍光灯下での撮影**
：**電球、白熱灯下での撮影**

＊ストロボ発光時は、ホワイトバランス設定は無効になりますので、意図した撮影の場合ストロボを発光禁止にしてください。

アカルサ露出補正

被写体と背景のコントラスト（明暗の差）がきわめて大きい場合など、適正な明るさ（露出）が得られないときに使用します。

- **補正範囲は9段（−0.9〜+1.5EV，約0.3EVステップ）です。EVについては114ページをご参照ください。**

ストロボ発光時は、アカルサ設定は無効になりますので、意図した撮影の場合ストロボを発光禁止にしてください。

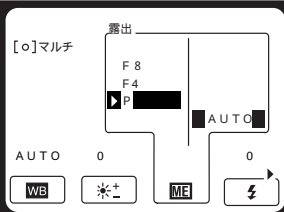
◆次のような被写体のとき効果があります◆

+（プラス）補正

- 白っぽい紙に黒い文字の印刷物の複写（+1.5EV）
- 逆光の人物撮影（+0.6〜+1.5EV）
- スキー場などの明るい場面や反射の強い場合（+0.9EV）
- 画面内を空の部分が大きく占める場合（+0.9EV）

−（マイナス）補正

- スポットライトを浴びた人物、特にバックが暗い場合（−0.6EV）
- 黒っぽい紙に白い文字の印刷物の複写（−0.6EV）
- 常緑樹または色の濃い葉など反射率が低い場合（−0.6EV）

＊（　）内は補正のめやすです。

ME マニュアル露出

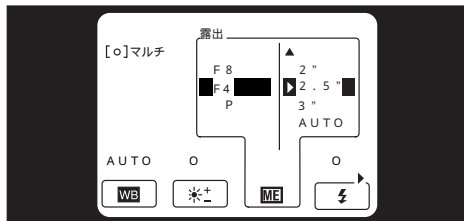
P（プログラムオート）、絞り優先AE設定、マニュアル露出設定ができます。

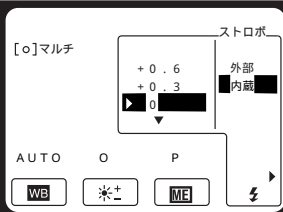
● P（プログラムオート）：
絞りを“ P ”に設定してください。絞りとシャッタースピードが自動で設定されます。

● 絞り優先AE設定：
絞りを“ F4 ”か“ F8 ”に固定することができます。設定した絞りで、適切なシャッタースピードが自動的に設定されます。絞り優先AEに設定するには、絞りの“ F4 ”か“ F8 ”を選択し、シャッタースピードは“ AUTO ”にしてください。

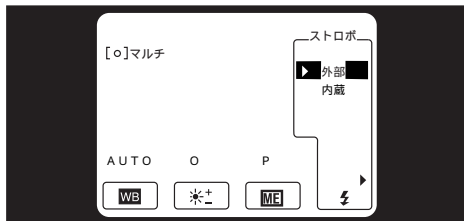
● マニュアル露出設定：
お好みの絞りとシャッタースピードに設定できます。絞りの“ F4 ”か“ F8 ”を選択し、シャッタースピードの値を設定してください（➡52ページ）。

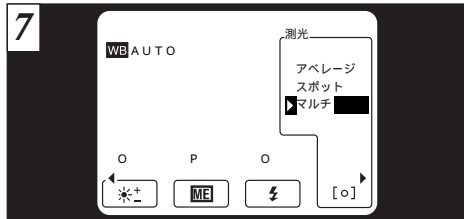
3

❗絞り“ P ”以外を選択した場合はストロボモードを“ 👁 赤目軽減 ”、または“ ⚡ 強制発光 ”にしないとストロボは発光しません。

● シャッタースピード
絞り"F4"では
AUTO、3"(3秒)〜500(1/500秒)
絞り"F8"では
AUTO、3"(3秒)〜1000(1/1000秒)
が選択できます。

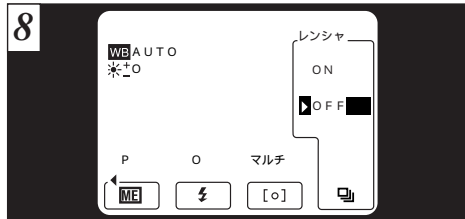
- シャッタースピードの設定は1/3EVステップです。EVについては114ページをご参照ください。
- シャッタースピードに"AUTO"以外を設定した場合は、"アカルサ露出補正"(➡50ページ)"[○]測光モード"(➡54ページ)は無効になります。
- 1/4秒より長いシャッタースピードでは、撮影した画像に点状のノイズが現れたり、ザラついた画像になる場合がありますが、故障ではありません。

ストロボの明るさ補正

被写体が画面内で極端に小さい場合や、近距離でストロボ撮影する場合など、適正な明るさにならないときに使用します。

● 補正範囲は±2段（−0.6〜＋0.6EV、約0.3EVステップ）です。

外部ストロボの使いかたは98ページをご参照ください。

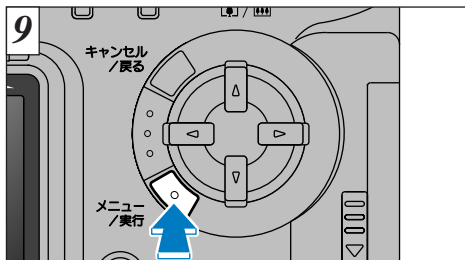
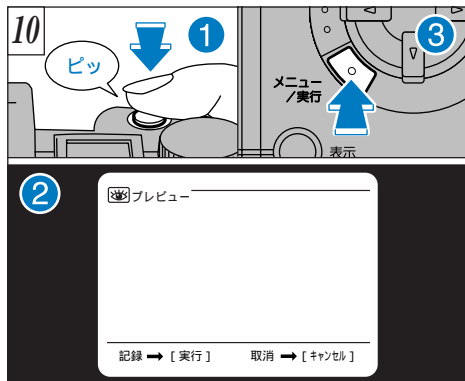
ストロボをポップアップした状態では“ 外部 ”に設定できません。

[o] 測光モード

マニュアル露出設定で、シャッタースピードが“AUTO”の場合に限り有効です。

● アベレージ：画面全体を平均して測光します。
● スポット　：画面中央部の露出が最適になるように測光します。
● マルチ　　：自動で場面を判別し、露出が最適になるように測光します。

レンシャ（連写）

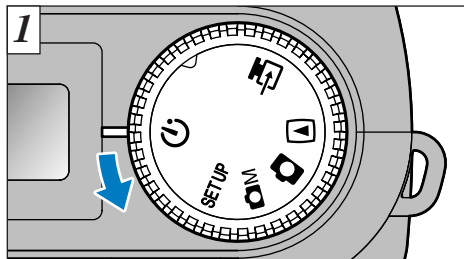
“ON”にするとピクセル設定が［640］に固定されます。シャッターボタンを押している間、連続撮影します。

● 連写仕様
　秒間撮影枚数：最大3コマ
　連続撮影枚数：9コマ
　撮影サイズ　：640×480ピクセル固定

! ストロボ撮影、デジタル拡大撮影はできません。
! ピントと露出は、シャッターボタンを押したときの値で固定されます。

メニューを設定し終わったら、“ メニュー/実行 ” ボタンを押して決定します。設定した内容は電源を切っても保持されます。

❶ シャッターボタンを押して撮影します。
❷ 液晶モニターに撮影結果が表示されます。
❸ 画像を記録したい場合は、“ メニュー/実行 ” ボタンを押してください。

! バッテリーを長時間取り出したままにしたり、設定中にバッテリーを取り出したりすると、各種設定が工場出荷設定に戻ることがあります。

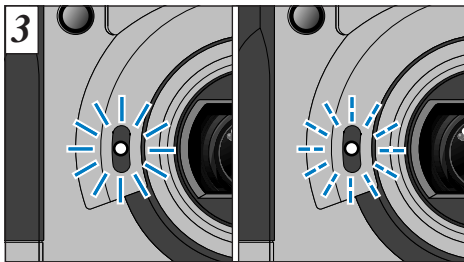
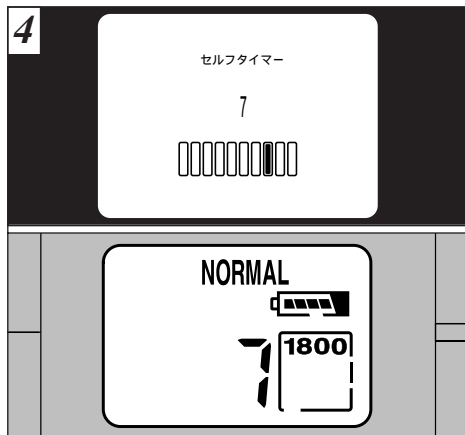
! 連写時は撮影した画像がマルチ画面でプレビューされます。

! 意図した撮影結果でない場合、“ キャンセル/戻る ”ボタンを押すとスマートメディアに記録されません。もう一度撮影し直してください。

セルフタイマー撮影

モードダイヤルを“ ”に合わせます。

被写体にAFフレームを合わせ、シャッターボタンを押すとAFフレーム内に見えるものにピントが合い、セルフタイマーがスタートします。

- レンズが汚れていないか確認してください。汚れている場合は、103ページを参照してレンズをきれいにしてください。
- “ ベストフレーミング機能 ”の使用も可能です（➡30ページ）。
- “ 夜景モード ”での撮影も可能です（➡39ページ）。

- AFロック撮影も可能です（➡28ページ）。
- カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。ピンボケや適正な明るさ（露出）にならないことがあります。

3 **セルフタイマーランプが約5秒間点灯したのち点滅に変わり、さらに約5秒後に撮影されます。**

撮影されるまでの間、液晶モニターと液晶表示パネルにカウントダウン表示されます。

! スタートしたセルフタイマー撮影は、“ キャンセル/戻る ”ボタンを押すと解除できます。

! 液晶モニターOFFの場合でも、液晶表示パネルで確認できます。

セットアップ ▶設定項目は次のとおりです。

項目名	表　示	工場出荷時	内　　容
クオリティー	Hi/FINE/NORMAL/BASIC	NORMAL	記録する圧縮率を設定できます。22ページの設定切り換えと同じ機能です。
ピクセル	1800×1200/640×480	1800×1200	記録する画素数（画像サイズ）を設定できます。23ページの設定切り換えと同じ機能です。
シャープネス			5段階切り換えです。 輪郭の処理をしません。 輪郭をややソフトにします。 通常の撮影に最適。 パソコン、プリンターでの大サイズプリントやビデオプロジェクター出力などで鮮明画像が得られます。 建物・文字などを特に鮮明にしたい撮影に最適。
オートパワーオフ	有効/無効	有効	使用するかしないかを切り換えます。“ 無効 ”にすると、約2分以上放置しても自動的に電源が切れません。“ 有効 ”にしても、オートプレイとPCモードではオートパワーオフしません。
LCD	ON/OFF	ON	撮影モードにしたときに、液晶モニターを自動的にONにするかOFFにするかを切り換えます。
コマNo.メモリー	ON/OFF	OFF	コマNo.メモリー機能を使用するかしないかを切り換えます（➡60ページ）。
ビープ♪	HIGH/LOW/OFF	HIGH	操作したときの音量を切り換えます。“ OFF ”にすると音が鳴りません。
日時	実行	—	日付・時刻を設定できます（➡17ページ）。
リセット	実行	—	“ メニュー/実行 ”ボタンを押すと、SET UP画面内の項目（日時は除く）を工場出荷設定に戻せます。

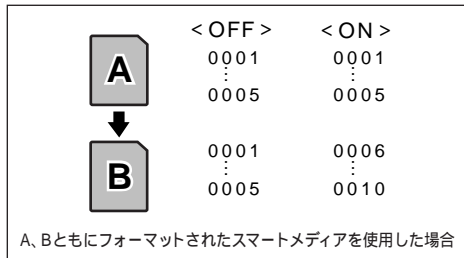
❶モードダイヤルを“SETUP”に合わせ、SET UP画面を表示します。

❷十字ボタンの“▲▼”を押して項目を選択します。

十字ボタンで設定を変更できます。

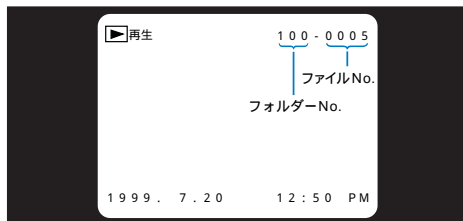
! バッテリーを交換するときは、必ず電源を切ってください。電源を切らずにバッテリーカバーを開けたりACパワーアダプターを抜くと、各種設定が工場出荷設定に戻ることがあります。

3

〈コマNo.メモリー〉

OFF：スマートメディアごとに「ファイルNo. 0001」から撮影

ON　：最後に使用したスマートメディアの「最終ファイルNo.」から続けて撮影

“ ON ”にすると、パソコンなどに画像を取り込んだときにファイル名が重複しないので、ファイルの管理に便利です。

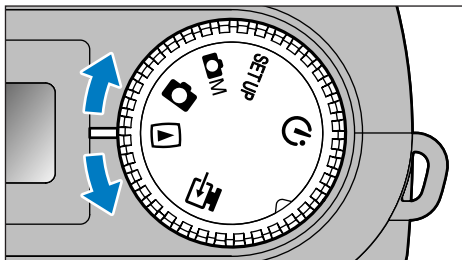
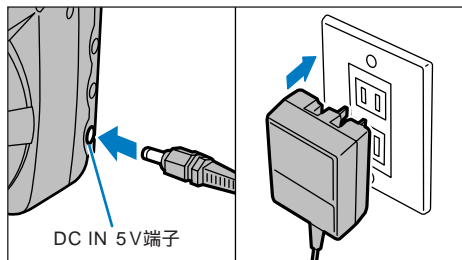
! 記憶した「最終ファイルNo.」より、大きいファイルNo.の画像がスマートメディアにあった場合、大きいファイルNo.の続きから撮影されます。

画像を再生するとファイルNo.を確認できます。画面の右上の7けたの数字のうち下4けたがファイルNo.で、残りの3けたはフォルダーNo.です。

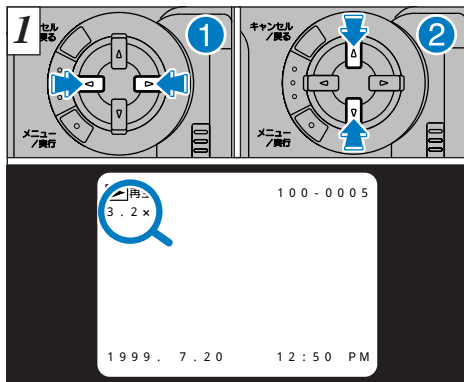
! スマートメディアを交換するときは、必ず電源を切ってからスロットカバーを開けてください。電源を切らずにスロットカバーを開けると、コマNo.メモリーが機能しません。

! ファイルNo.は0001から9999までで、それを超えるとフォルダーNo.が1つ繰り上がります。最大で999−9999までカウントされます。

! コマNo.メモリーを“ OFF ”にすると、記憶した「最終ファイルNo.」がリセットされます。

! 他のカメラで撮影した画像は、コマNo.表示が異なる場合があります。

応用編 再生では

ここでは、モードダイヤルを“ ▶ ”に合わせた状態で行えるいろいろな機能を紹介します。このあとの操作説明は、モードダイヤルが“ ▶ ”に合っていることを前提に説明します。

また、コンセントが近くにある場合は、画像を再生したりエフェクトをかけている最中に電源が切れないように、ACパワーアダプター AC-5Vを接続してください(➡15ページ)。

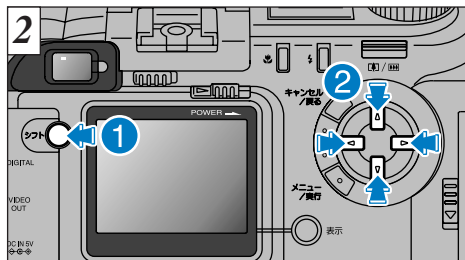
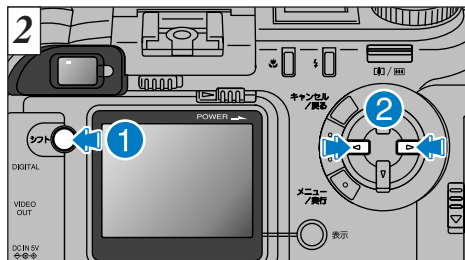
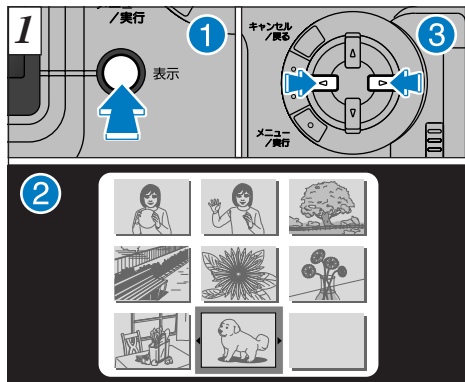
再生ズーム

❶十字ボタンの“ ◀ ▶ ”でズームしたい画像を表示します。
❷十字ボタンの“ ▲ ▼ ”を押してズーム倍率を設定します。

ズームしたあとに、❶“ シフト ”ボタンを押しながら❷十字ボタンの“ ▲ ▼ ◀ ▶ ”を押すと、見える範囲を移動することができます（ズーム送り）。

❗ズーム倍率は0.2ステップで4.0×までです。
❗ズーム中に“ ◀ ▶ ”を押すと、ズームが解除され次の画像に送られます。

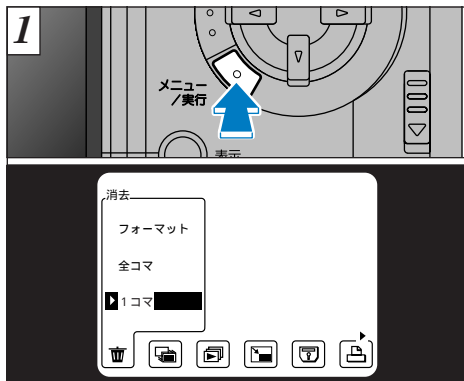
❗“ キャンセル/戻る ”ボタンを押すと、画像が等倍に戻ります。
❗“ シフト ”ボタンを押すと操作ガイダンスが表示されます。

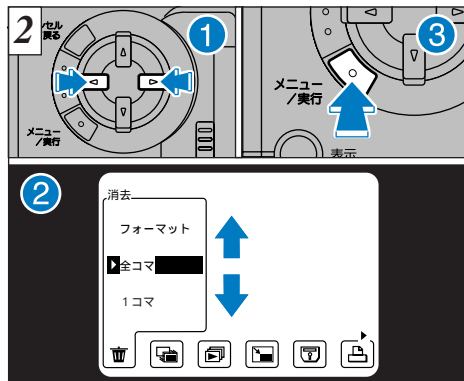
マルチ再生

1

撮影した画像が9コマ以上ある場合、①“ シフト ”ボタンを押しながら ②十字ボタンの“ ◀ ▶ ”を押すと、すぐにページを移動して表示できます。

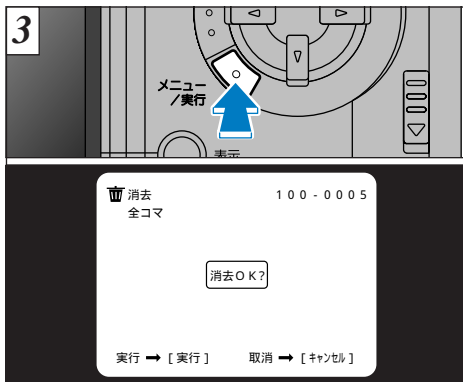
① 再生中に“ 表示 ”ボタンを2回押します。
② マルチ再生（9コマ）になります。
③ 十字ボタンの“ ◀ ▶ ”でカーソル（橙色の枠）を動かしてコマを選べます。選んだ画像を大きく見たい場合は、再度“ 表示 ”ボタンを押してください。

! 液晶モニターの文字表示は、約3秒後に消えます。連続表示はできません。
! 再生ズーム中はマルチ再生はできません。

! マルチ再生では“ ▲▼ ”ボタンは無効です。
! “ シフト ”ボタンを押すと操作ガイダンスが表示されます。
! マルチ再生は、1コマ消去、1コマプロテクト、DPOF 1コマ設定、DPOF確認/解除で画像を選択する場合に便利です。

全コマ消去/フォーマット

“ メニュー/実行 ”ボタンを押すと液晶モニターにメニューが表示されます。

❶“ 消去 ”を選びます。
❷“ ▲▼ ”を押して“ 全コマ ”か“ フォーマット ”を選びます。
❸“ メニュー/実行 ”ボタンを押します。

1コマ消去は33ページをご参照ください。

フォーマットするとすべての画像が消去されます。[地図データ(➡84ページ)を含む]

実行を確認する画面が表示されます。OKなら“メニュー/実行”ボタンを押して実行します。

●全コマ消去
すべての画像を消去します。

＊フォルダー（➡60ページ）とプロテクトした画像（➡71、73ページ）は残ります。

●フォーマット
すべてのデータを消去してこのカメラ用に作り直します（初期化）。

“ CARD NOT INITIALIZED ”や“ CARD ERROR ”

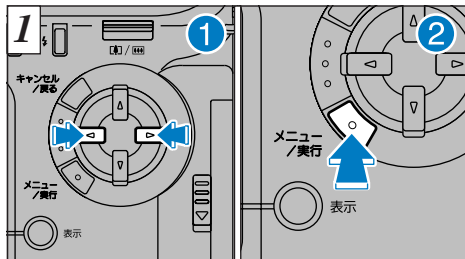
と表示された場合に使用します。

＊フォルダーとプロテクトした画像も消えます。

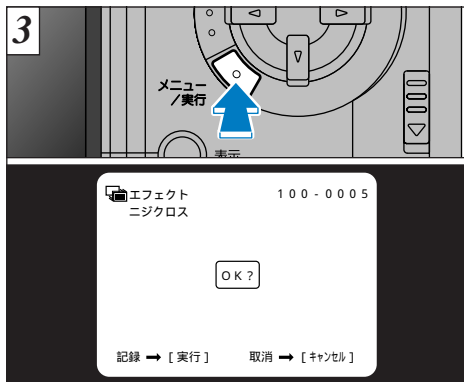
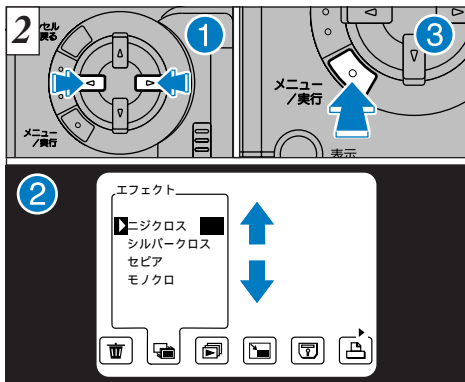
“ CARD ERROR ”が表示された場合は、まずスマートメディアの接触面（金色の部分）を乾いた柔らかい布などで軽くふいてから、再度セットしてください。それでも表示される場合は、フォーマットをします。

エフェクト機能

撮影済みの画像にエフェクトをかけると、独自の画像を作り出せます。自動的に別の画像として記録されるので、エフェクトをかける前の画像も残せます。

- モノクロ　　　：黒白の画像にします。
- セピア　　　　：セピア色の画像にします。
- シルバークロス：輝いている効果を出します。
- ニジクロス　　：虹色に輝いている効果を出します。

❶ エフェクトをかけたい画像を液晶モニターに表示します。

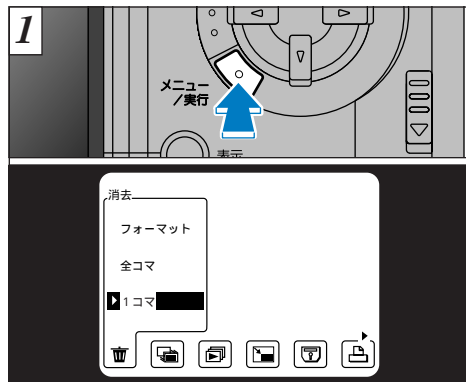
❷ “メニュー/実行”ボタンを押すとメニューが表示されます。

! エフェクトをかけた画像を記録するには、スマートメディアに十分な空き容量が必要です。

❶“ エフェクト ”を選びます。
❷“ ▲▼ ”を押して実行したい種類を選びます。
❸“ メニュー/実行 ”ボタンを押します。

エフェクトのかかった画像が表示されます。記録する場合は“ メニュー/実行 ”ボタンを押します。画像は別ファイルで記録されます。

4

！“ CARD FULL ”と表示された場合は、記録できません。画像を消去するなどして、スマートメディアの空き容量を確保してください。
！記録しない場合は、“ キャンセル/戻る ”ボタンを押してください。

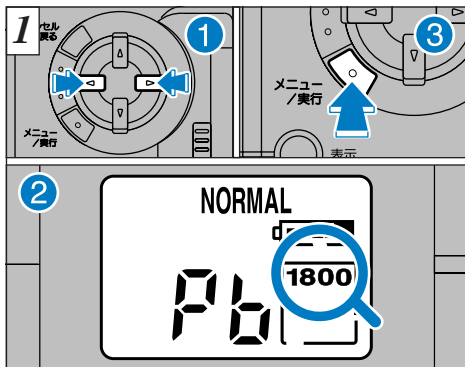
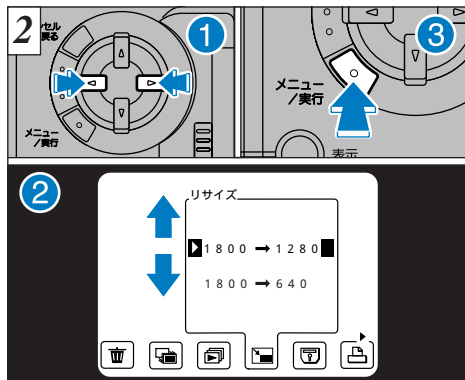
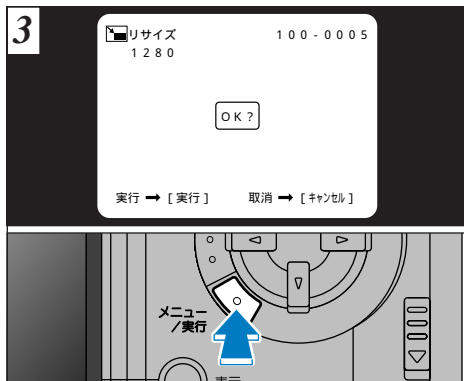
再生メニュー オートプレイ（自動再生）

“ メニュー/実行 ”ボタンを押すと液晶モニターにメニューが表示されます。

❶“ オートプレイ ”を選びます。
❷“ メニュー/実行 ”ボタンを押します。画像が自動的にコマ送りされて再生されます。

! 画像が表示されているときに“ 表示 ”ボタンを1回押すと、液晶モニターに“ オートプレイ ”と再生コマNo.が表示されます。

! 途中で止めたい場合は、画像が表示されているときに“ キャンセル/戻る ”ボタンを押してください。

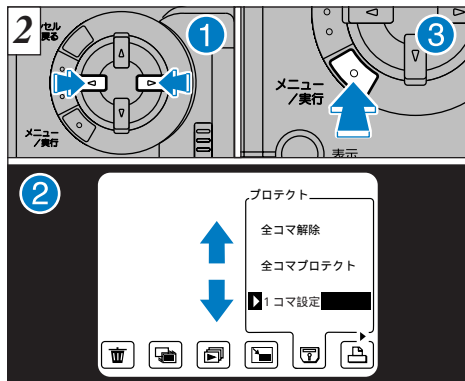
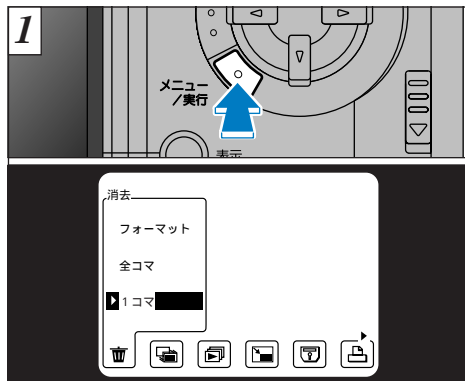
! オートプレイ中はオートパワーオフしません。

リサイズ（縮小）

❶リサイズしたい画像を液晶モニターに表示します。
❷液晶表示パネルで、画像サイズが［1800］であることを確認します。
❸“メニュー/実行”ボタンを押してメニューを表示します。

❶“ リサイズ”を選びます。
❷“1800 ➡1280”か“1800 ➡640”を選びます。
❸“メニュー/実行”ボタンを押します。

実行を確認する画面が表示されます。OKなら“メニュー/実行”ボタンを押して実行します。画像は別ファイルで記録されます。

❗“ CARD FULL ”と表示された場合は、記録できません。画像を消去するなどして、スマートメディアの空き容量を確保してください。

❗リサイズをしない場合は、“キャンセル/戻る”ボタンを押してください。

“ NOT 1800 ”と表示された場合は、撮影した画像サイズが［1800］ではありません。リサイズできるのは、ピクセル設定が［1800］で撮影されている画像のみです。

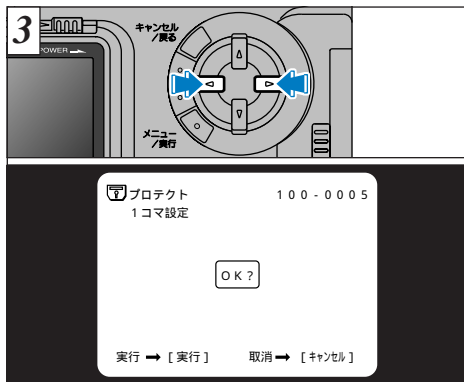
再生メニュー 1コマプロテクト設定/解除

“ メニュー/実行 ”ボタンを押すと液晶モニターにメニューが表示されます。

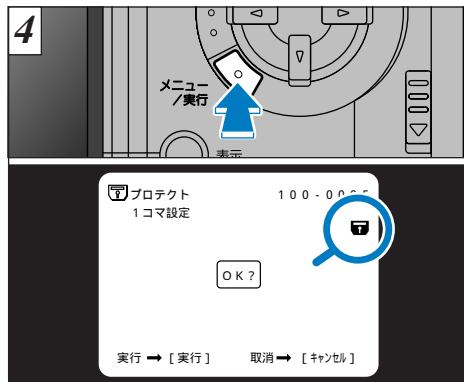
プロテクトとは：
画像を誤って消去しないように設定することです。

❶“ プロテクト ”を選びます。
❷“ ▲▼ ”を押して“ 1コマ設定 ”を選びます。
❸“ メニュー/実行 ”ボタンを押します。

4

! 画像を選ぶときはマルチ再生（➡63ページ）すると便利です。

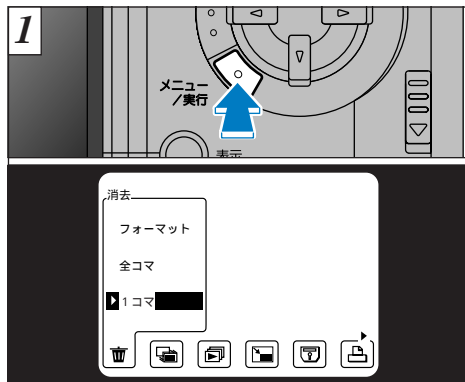
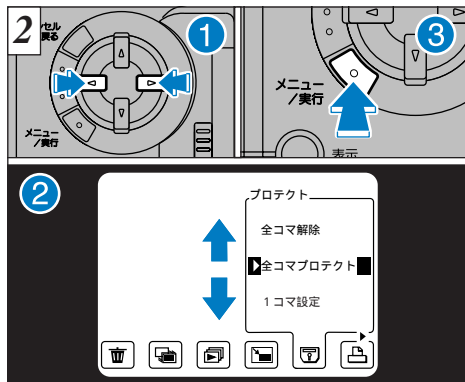
再生メニュー 1コマプロテクト設定/解除

“ ◀ ▶ ”ボタンでプロテクトしたい画像を選びます。

! プロテクトをしない場合は、“ キャンセル/戻る ”ボタンを押してください。

“ メニュー/実行 ”ボタンを押すと画像がプロテクトされ、右端に“ ”マークが表示されます。プロテクトを解除するには、もう一度“ メニュー/実行 ”ボタンを押します。

! プロテクトを続けるには、「3」からの操作を繰り返します。

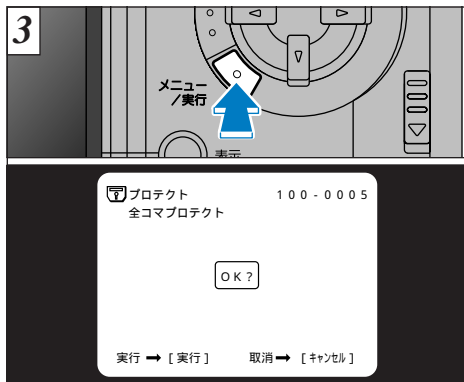
! プロテクト操作を解除するには“ キャンセル/戻る ”ボタンを押してください。

! プロテクトされていても、“ フォーマット ”するとすべての画像が消去されます（➡64ページ）。

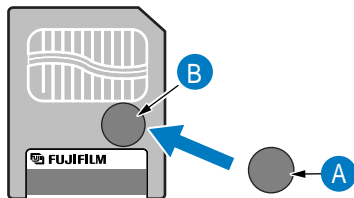
再生メニュー 全コマプロテクト設定/解除

“ メニュー/実行 ”ボタンを押すと液晶モニターにメニューが表示されます。

❶“ プロテクト ”を選びます。
❷“ ▲▼ ”を押して“ 全コマプロテクト ”が“ 全コマ解除 ”を選びます。
❸“ メニュー/実行 ”ボタンを押します。

4

全コマプロテクト設定/解除

実行を確認する画面が表示されます。OKなら“ メニュー/実行 ”ボタンを押して実行します。

プロテクトされていても、“ フォーマット ”するとすべての画像が消去されます。

スマートメディア™の誤記録防止について

ライトプロテクトシールをはると、画像の記録/消去・フォーマットができません。シールをはがすと通常どおり使用できます。

＊必ず付属のライトプロテクトシールⒶを、ライトプロテクトエリア内Ⓑに、はみ出さないようにしっかりとはってください。
＊シールの端で手を切らないようにご注意ください。
＊シールが汚れていると、誤記録防止されないことがあります。
＊スマートメディアについて、詳しくは106ページをご参照ください。

DPOFについて

DPOF（ディーポフ）とはDigital Print Order Format（デジタルプリントオーダーフォーマット）のことで、デジタルカメラで撮影した画像の中から、プリントしたいコマやその枚数などの指定情報をスマートメディアなどに記録するときの形式です。

デジタルカメラ

スマートメディア

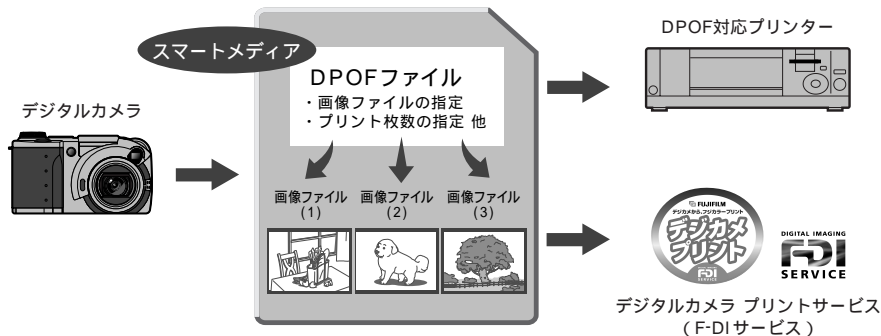
DPOFファイル
・画像ファイルの指定
・プリント枚数の指定 他

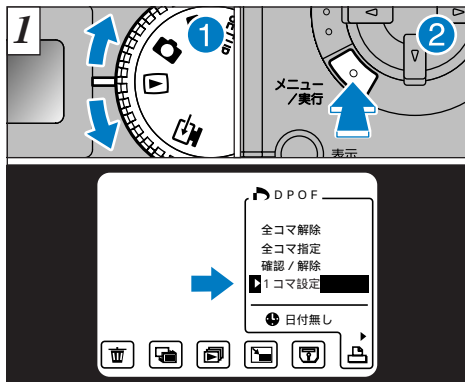
画像ファイル（1）　画像ファイル（2）　画像ファイル（3）

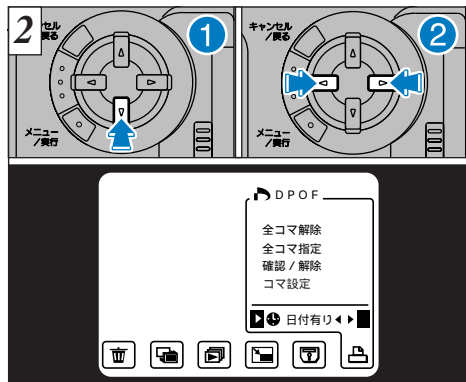
DPOF対応プリンター

FUJIFILM デジカメから、フジカラープリント デジカメプリント

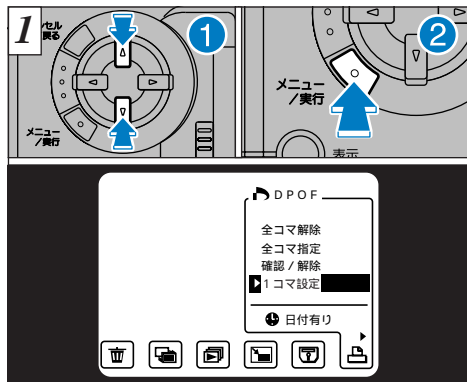
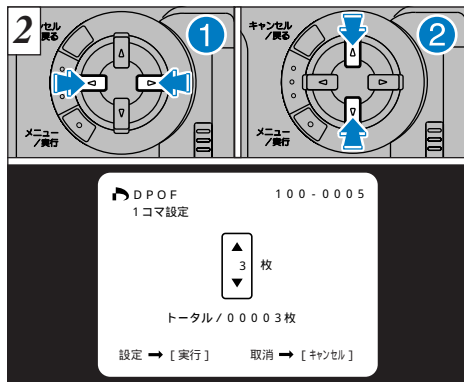
DIGITAL IMAGING FDI SERVICE

デジタルカメラ プリントサービス（F-DIサービス）

- DPOF対応デジタルカメラ（本機）では上記の情報をカメラの操作でスマートメディアに記録することができます。
- DPOF情報を記録したスマートメディアを、フジフイルム デジタルカメラプリントサービス（F-DIサービス）取り扱い店にお持ちいただくだけで、指定情報どおりの高画質プリントサービスが受けられます。
- DPOF対応プリンターでは、DPOF情報があれば、指定コマ（画像ファイル）を指定枚数だけ自動的にプリントできます。

DPOF 日付設定

プリントに撮影した日付を入れるか入れないかを選べる機能です。

① モードダイヤルを“ ▶ ”に合わせ
② “メニュー/実行”ボタンを押して、液晶モニターにメニューを表示させます。
③ “ ▶ ”を押して“ DPOF ”を選びます。

① “ 日付 ”を選びます。
② “ ◀ ▶ ”を押すと、“ 日付有り ”か“ 日付無し ”が設定できます。その後、設定を変更するまですべてに有効です。

! 他の設定の前に、必ず日付有り/無しの設定を行ってください。

再生メニュー DPOF　1コマ設定

❶“ 1コマ設定 ”を選びます。
❷“ メニュー/実行 ”ボタンを押します。

❶“ ◀ ▶ ”で設定するコマを表示させます。
❷“ ▲▼ ”でプリント枚数を指定します。

トリミング設定をしない場合は 6 へ(➡79ページ)

- 設定の前に、必ず日付の有り/無しを設定してください。
- 1コマ設定・トリミング設定のあとに全コマ指定を行うと、1コマ設定で設定したコマ数とトリミング設定は解除されます。

- 指定できるプリント枚数は99枚までです。また、同一カード内でプリント指定できるコマ数は999コマまでです。
- 画像を選ぶときはマルチ再生(➡63ページ)すると便利です。

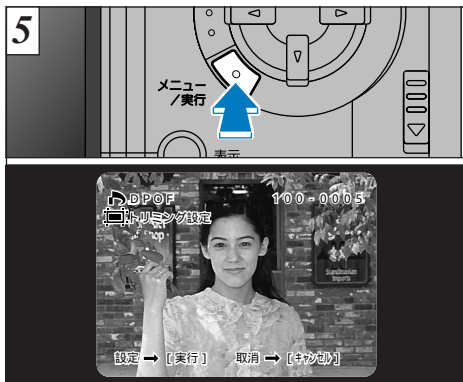
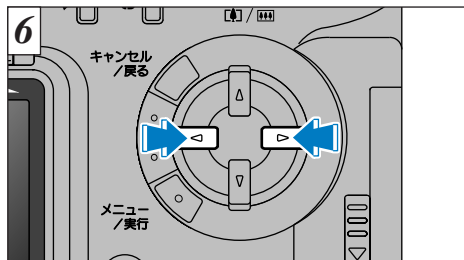
DPOF 1コマ設定

〈トリミング設定する場合〉 3～5

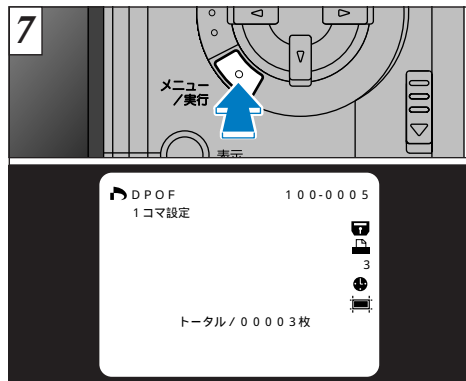
❶プリント枚数を指定したあとで、“シフト”ボタンを押しながら❷“メニュー/実行”ボタンを押すと、トリミング設定画面になります。

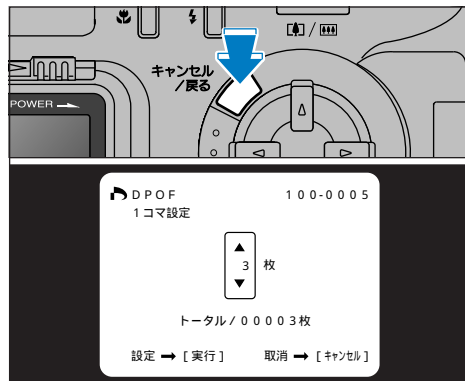
❶“▲▼”でズームします。
❷“シフト”ボタンを押しながら十字ボタンの“▲▼◀▶”を押すと、トリミングする範囲を移動することができます。

❗ 640×480ピクセルの画像はトリミング設定できません。
❗“シフト”ボタンを押すと操作ガイダンスが表示されます。

❗ トリミングできる最小ピクセル数は640×480相当までです。それ以上小さくしようとすると警告音が鳴ります。
❗ トリミングでは、画像の縦横比は3：4になります。

“ メニュー/実行 ”ボタンを押すと、液晶モニターに見えている状態でトリミング設定が決定されます。

“ ◀ ▶ ”で次のコマを表示し、続けてプリント枚数を指定できます。

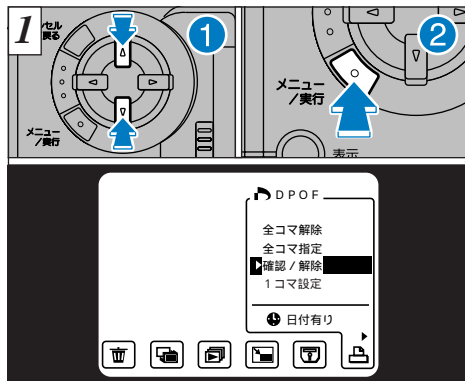
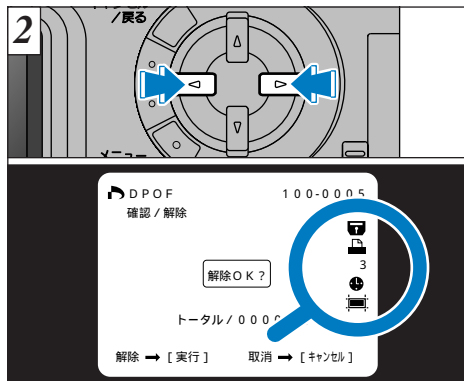
❗指定した日付設定、プリント枚数設定、トリミング設定は自動的に確定され、さらにこれらの情報を誤って消去しないように、そのコマがプロテクトされます。

4

〈実行する場合〉

設定が終わったら、必ず“メニュー/実行”ボタンを押して決定してください。液晶モニターにトータル枚数が表示され、メニューに戻ります。確定したコマには“ ”“ ”とプリント枚数、日付設定有りの場合は“ ”、トリミング設定有りの場合は“ ”が表示されます。

〈キャンセルする場合〉

キャンセルした場合は、選択中のコマの設定のみ無効になります。選択中のコマ以外の設定はキャンセルされません。

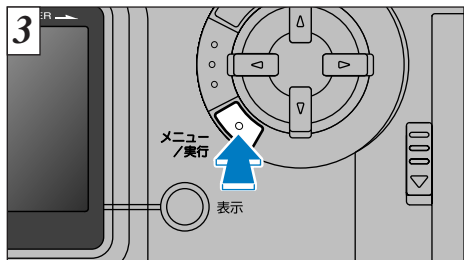
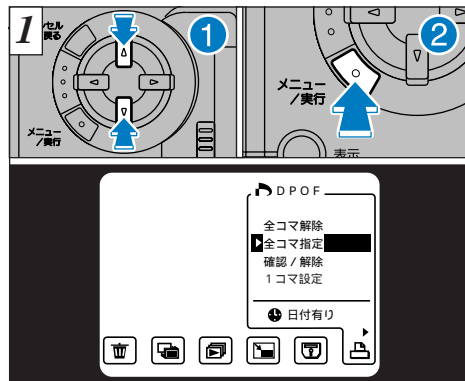
“トータル”は指定したプリント枚数の合計です。

再生メニュー DPOF　確認/解除

❶“ 確認/解除 ”を選びます。
❷“ メニュー/実行 ”ボタンを押します。

“ ◀ ▶ ”を押すと、プリント枚数設定をしたコマだけを確認できます。各コマの設定は画面の右端に表示されます。

❗ 画像を選ぶときはマルチ再生（➡63ページ）すると便利です。

❗ すべてのプリント設定が解除されている場合“ トータル ”は00000枚になり、背景が黒画面になります。

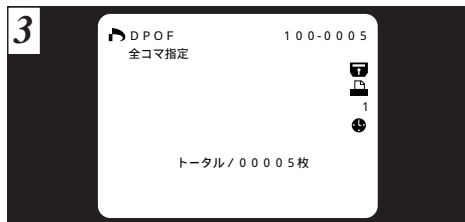
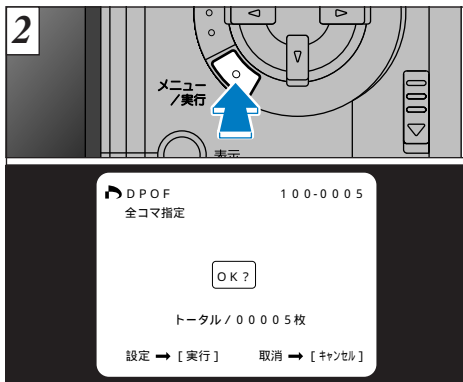
4

再生メニュー DPOF 確認/解除

プリント設定を解除するには、解除したい画像を表示し" メニュー/実行 "ボタンを押します。

! 解除してもプロテクトはされたままです。プロテクトを解除する場合は、71～74ページをご覧ください。

再生メニュー DPOF 全コマ指定/全コマ解除

❶" 全コマ指定 "か" 全コマ解除 "を選びます。
❷" メニュー/実行 "ボタンを押します。

実行を確認する画面が表示されます。OKなら“ メニュー/実行 ”ボタンを押して実行します。

- “ 全コマ指定 ”は、すべての画像を1枚ずつプリントする指定をします。
- 1コマ設定での指定とトリミング指定は解除されます。
- 同一カード内でプリント指定できるコマ数は、999コマまでです。999コマ以上の指定をすると“ !DPOF FILE ERROR ”警告が出ます。

液晶モニターにトータル枚数が表示され、その後メニューに戻ります。

- “ トータル ”は指定したプリント枚数の合計です。
- 全コマ解除した場合“ トータル ”は00000枚になります。

マップビューワー機能について

本機ではパソコン用地図ソフトMapFan IVとの連携により、以下のような機能を実現しています。用途に合わせてご活用ください。

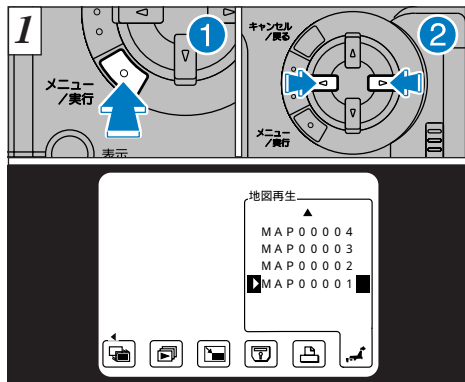
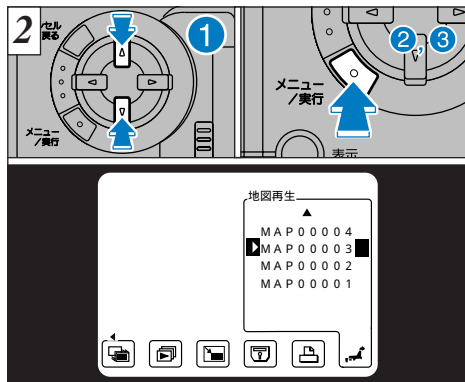
❶ MapFan IVの地図データを、エリアや縮尺率を自由に選択して、スマートメディアにダウンロード（パソコンを使ってコピー）すると、本機の液晶モニターで再生することができます。また、MapFan IVでは地図データだけでなく、地図上の建物の画像などの関連情報を同時にダウンロードして、再生することができます。初めて行く場所の道案内など、様々な用途にご活用ください。

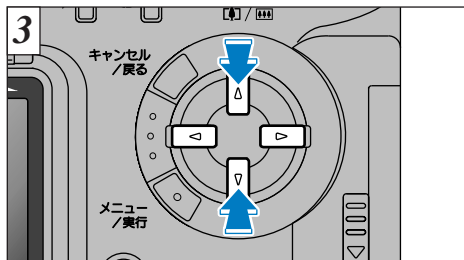
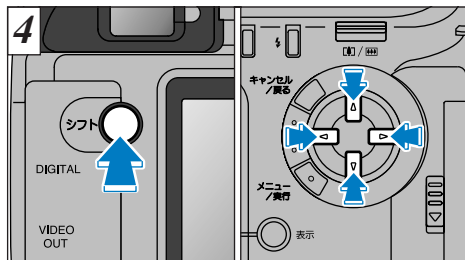
❷ 再生した地図上の緯度・経度の情報を、本機で撮影する画像の付加情報として、撮影と同時に記録することができます。また、本機で撮影した画像をMapFan IV（パソコン）、またはパイオニア（株）製カーナビゲーションシステムで活用することが可能です。

本機には経度・緯度の位置情報を検出する機能はありません。撮影を行う場所のMapFan IVの地図データを、事前にスマートメディアにダウンロードしておくことが必要です。

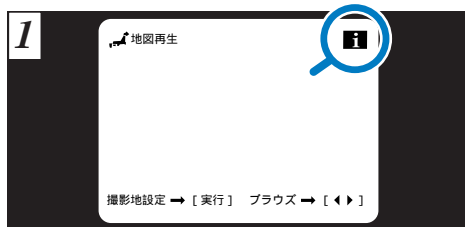
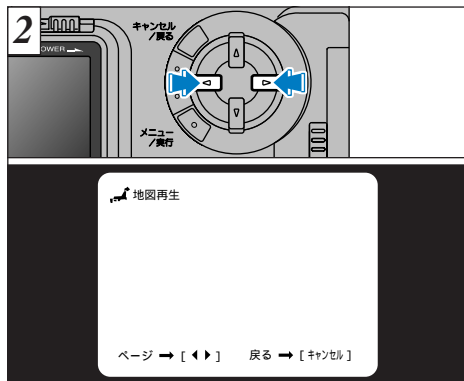
MapFan IVはインクリメントP（株）製のパソコン（Windows95/98、WindowsNT4.0）用ソフトです。本章でご説明する機能は、MapFan IVをパソコンで活用されている場合のみご利用可能ですのでご注意ください。

- MapFan IVについて、以下のインターネットホームページに詳しい情報があります。
  URL http://www.incrementp.co.jp/
- MapFan IVについて、詳しくは下記までお問い合わせください。
  インクリメントP（株） TEL（03）3491-5032
- パイオニア（株）製カーナビゲーションシステムについて、詳しくは下記までお問い合わせください。
  パイオニア（株）お客様相談センター
  全国共通フリーフォン　0070-800-8181-11

再生メニュー マップビューワー機能 地図を選んで見るには

❶“メニュー/実行”ボタンを押すと液晶モニターにメニューが表示されます。
❷“ 地図再生”を選びます。

❶見たい地図の名称“MAP00003”などを選びます。
❷“メニュー/実行”ボタンを押します。
❸選んだ地図のタイトル画面が表示されたあと、“メニュー/実行”ボタンを押すと地図の再生に切り換わります。

4

十字ボタンの“ ▲▼ ”で地図の拡大・縮小が行えます。十字ボタン“ ▲ ”を押して地図を拡大してみましょう。

地図を拡大した状態で液晶モニターで見える範囲を変えたい場合は、“ シフト ”ボタンを押しながら、十字ボタンで範囲を移動します。

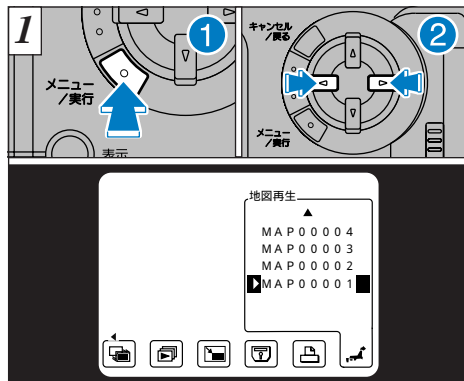
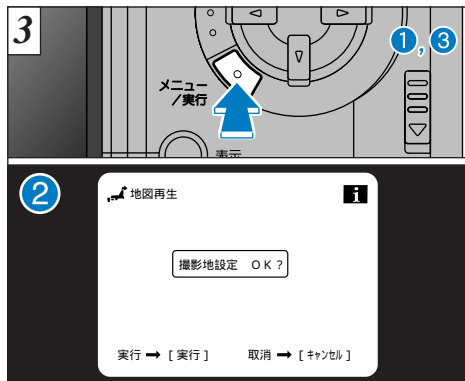
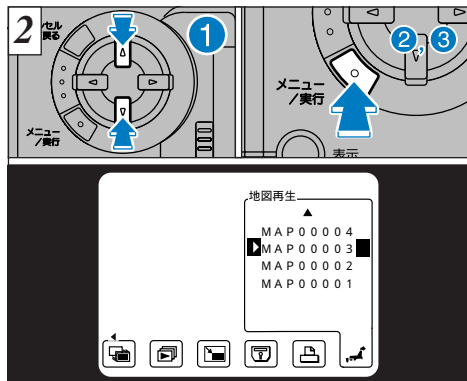
拡大表示すると、より詳しい地図を見ることができます。

マップビューワー機能　関連情報を見るには

液晶モニター右上に" i "マークが表示される場合、関連情報があることを示します。

関連情報を見るには、" ◀ ▶ "ボタンを押します。" ◀ ▶ "ボタンを押すごとに関連情報が切り換わります。

" キャンセル/戻る "ボタンを押すと、地図の再生に戻ります。

撮影地情報とは

本機では、再生した地図上の緯度・経度の情報を撮影と同時に記録することができます。
撮影する場所の地図データ（MapFan IVのデータ）を事前にスマートメディアにダウンロード（パソコンを使ってコピー）しておけば、撮影地の緯度・経度を記録しながら撮影をすることが可能です。

- 記録される緯度･経度は、“ 撮影地設定 ”をした地図の最も広範囲が見える状態での中心地点のものになります。
- スマートメディアへの地図データのダウンロードの方法については、MapFan IV（➡84ページ）の使用説明書をご覧ください。

❶“ メニュー/実行 ”ボタンを押すと液晶モニターにメニューが表示されます。
❷“ 地図再生 ”を選びます。

❶ **撮影地情報を設定したい地図の名称" MAP00003 "などを選びます。**

❷ **" メニュー/実行 "ボタンを押します。**

❸ **選んだ地図のタイトル画面が表示されたあと、" メニュー/実行 ボタンを押すと地図の再生に切り換わり、" 撮影地設定 ➡ [実行] "が表示されます。**

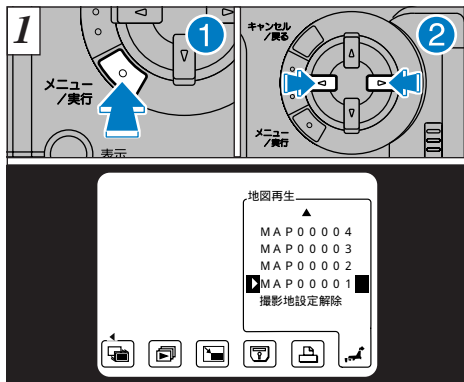
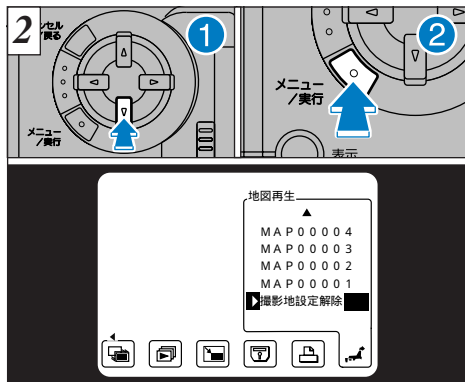
❗ 拡大は行わないでください。いちばん広範囲が見える状態でのみ、撮影地情報を設定することができます。もし拡大してしまったときは、十字ボタンの" ▼ "を押して地図を縮小してください。

❶ **最も広範囲が見える状態で、" メニュー/実行 "ボタンを押します。**

❷ **" 撮影地設定　OK？ "と表示されます。**

❸ **" メニュー/実行 "ボタンを押して設定します。地図の再生に戻り、撮影した画像に撮影地情報が記録されるようになります。**

4

再生メニュー マップビューワー機能　撮影地情報の記録を解除するには

❶"メニュー/実行"ボタンを押すと液晶モニターにメニューが表示されます。
❷" 地図再生"を選びます。

❶"撮影地設定解除"を選びます。
❷"メニュー/実行"ボタンを押します。

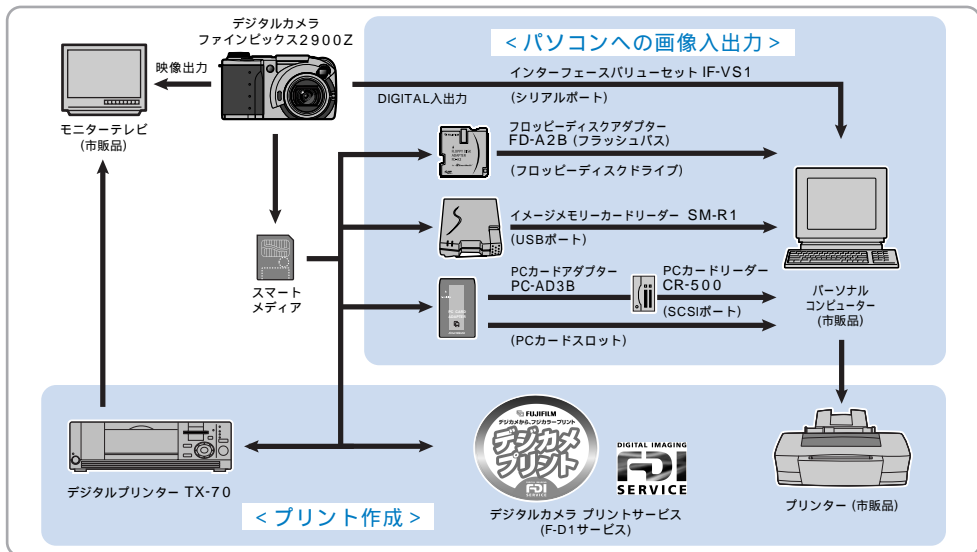
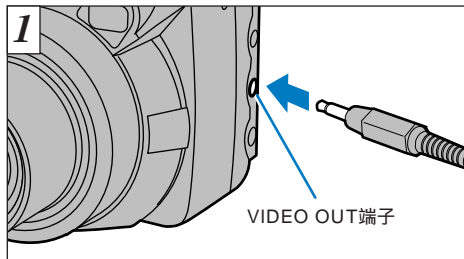
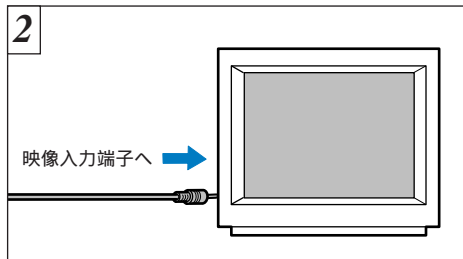
"撮影地設定解除"が消えます。設定を解除したので、撮影しても撮影地情報は記録されません。

❗"撮影地設定"をした場合に、撮影地設定解除メニューが表示されます。

❗他のMAPに"撮影地設定"したい場合は、先に解除を行ってください。

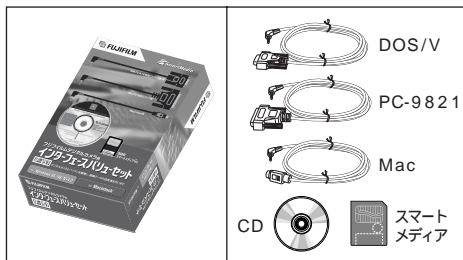
システムアップ機器（別売）

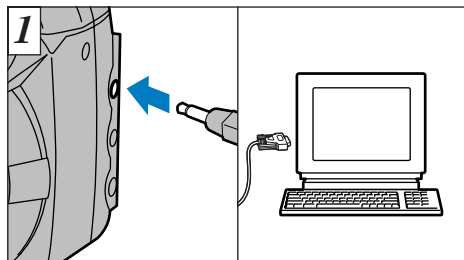
▶別売のフジフイルム製品と組み合わせることにより、様々な用途向けにシステムアップすることができます。詳しくは92〜102ページをご参照ください。

平成11年6月現在

テレビに画像を映す場合

カメラとテレビの電源を切ります。カメラの“ VIDEO OUT ”端子にビデオケーブル（付属品）のミニプラグを接続します。

テレビの映像入力端子にピンプラグを接続し、カメラとテレビの電源を入れて通常どおり撮影・再生を行ってください。

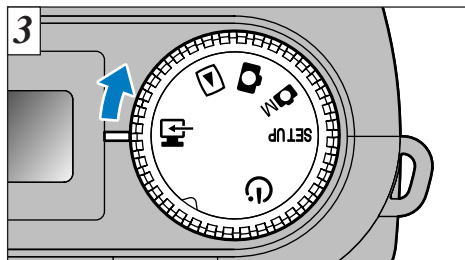
! コンセントが近くにある場合は、ACパワーアダプター AC-5Vを接続することをおすすめします。

! テレビの映像入力については、テレビの説明書をご参照ください。

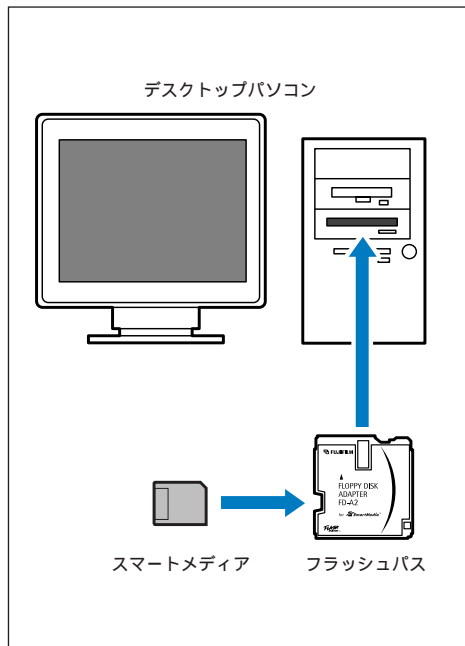
インターフェースバリューセット IF-VS1を使用する場合

- パソコンとカメラを付属のケーブルで接続し、画像データを転送します。
- 画像の簡単な加工や整理保存ができるアプリケーションソフトを収めたCD-ROMと8MBのスマートメディアが同梱されています。
- Windows95/98、WindowsNT4.0、Macintosh/MacOS7.6.1～MacOS8.5.1で利用可能です。ただし、右表の接続ポートのある機種に限ります。

＊クオリティー設定を［Hi］で撮影したファイルは、IF-VS1に付属のアプリケーション PICTURE SHUTTLEを使用して開くことができます。
＊IF-VS1を使用してシリアル接続をした場合のみ、カメラに「Copyright」データを転送できます。

必ずカメラとパソコンの電源を切ってください。カメラの“DIGITAL”端子に専用ケーブルのミニミニプラグ側を接続し、もう片方のプラグをパソコンに接続します。

	パソコンの接続ポート
Windows	COM1ポート～COM4ポートのいずれか
Macintosh	モデムポートもしくはプリンタ－ポート

必ずACパワーアダプター AC-5V（付属品）を接続してください（➡15ページ）。データ通信中に電源が切れると、正常なデータの送受信ができません。

モードダイヤルを“ ”に合わせ、カメラの電源を入れてからパソコンを起動します。ソフトウェアを使用して画像を送受信します。

- 確実に専用ケーブルが接続されているのを確認してから電源を入れてください。
- “ ”PCモードではオートパワーオフしません。
- ソフトウェアの使いかたは、インターフェースバリューセットの使用説明書をご覧ください。
- 接続前にパソコンにソフトウェアをインストールしてください。また、専用ケーブル以外は使用しないでください。
- 地図データの転送に“ ”PCモードは使用できません。

フロッピーディスクアダプター FD-A2B を使用する場合

●カメラからスマートメディアを取り出し、FD-A2Bに差し込みます。

●これをパソコンのフロッピーディスクドライブに挿入すると、フロッピーディスクでファイルを扱う場合と同じ要領で、カメラで撮影した画像データを取り扱うことができます。

●Windows98、Windows95（DOS/V機）、Windows95/OSR2（NEC PC-9821シリーズ）、Power Macintosh/漢字Talk7.5.3〜Mac OS8.1で利用可能です。

＊クオリティー設定を［Hi］で撮影したファイルは、IF-VS1（PICTURE SHUTTLE）、または、SD-U3（PICTURE SHUTTLE Pro）を使用して開くことができます（➡102ページ）。

! PCカード経由や、USBインターフェース経由で接続するタイプのフロッピーディスクドライブではお使いになれません。

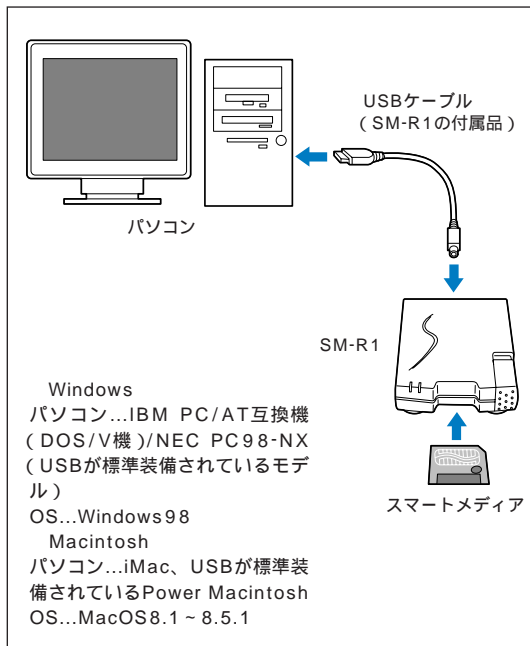
! LS-120やHiFDなど、高容量タイプのフロッピーディスクドライブではお使いになれません。

! Power Macintoshでご使用の場合は読み込み専用となります。

! 画像の閲覧や加工、プリントには別途画像アプリケーションソフト（JPEG対応）が必要です。

イメージメモリーカードリーダー SM-R1を使用する場合

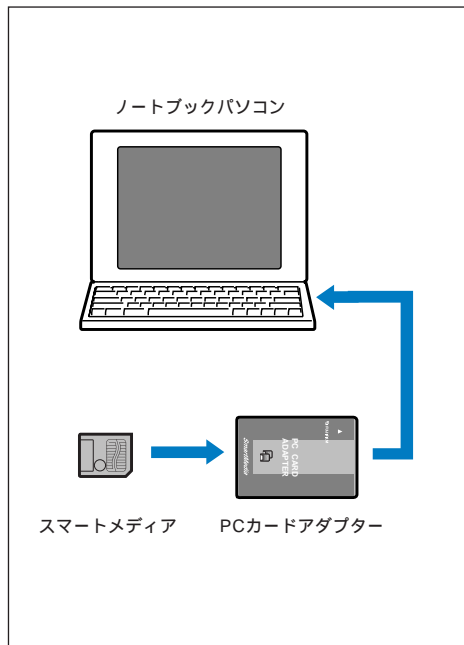
■Windows
パソコン…IBM PC/AT互換機（DOS/V機）/NEC PC98-NX（USBが標準装備されているモデル）
OS…Windows98

■Macintosh
パソコン…iMac、USBが標準装備されているPower Macintosh
OS…MacOS8.1〜8.5.1

- **カメラからスマートメディアを取り出し、イメージメモリーカードリーダーSM-R1に差し込みます。**
- **パソコンの外付けドライブのファイルを扱う場合と同じ要領で、カメラで撮影した画像データを取り扱うことができます。**

＊クオリティー設定を［Hi］で撮影したファイルは、IF-VS1（PICTURE SHUTTLE）、または、SD-U3（PICTURE SHUTTLE Pro）を使用して開くことができます（➡102ページ）。

! USBインターフェースを標準装備したパソコンでのみ利用可能です。

! 画像の閲覧や加工・プリントには、別途画像アプリケーションソフト（JPEG対応）が必要です。

PCカードアダプター PC-AD3Bを使用する場合

●カメラからスマートメディアを取り出し、PC-AD3Bに差し込みます。

●これをノートパソコンなどのPCカードスロットに挿入すると、PCメモリーカードでファイルを扱う場合と同じ要領で、カメラで撮影した画像データを取り扱うことができます。

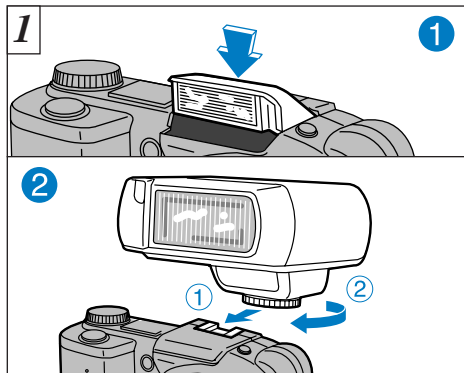
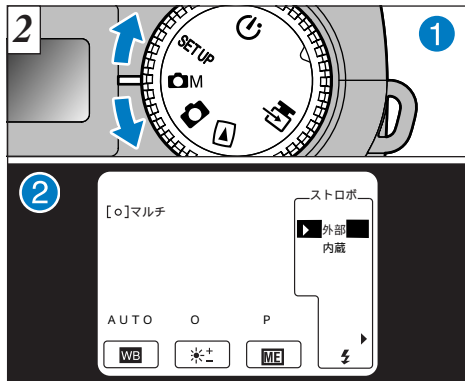
●Windows95/98、Macintosh/漢字Talk 7.5.5〜MacOS8.5.1で利用可能です。ただし、機能拡張のPC Exchange、またはFile Exchangeが必要です。

＊クオリティー設定を［Hi］で撮影したファイルは、IF-VS1（PICTURE SHUTTLE）、または、SD-U3（PICTURE SHUTTLE Pro）を使用して開くことができます（➡102ページ）。

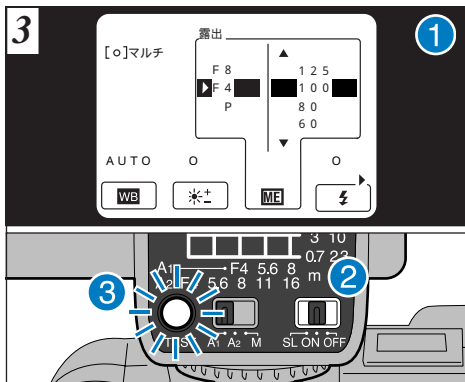
4

❗PCカードTYPE II 対応のPCカードスロット内蔵、またはPCカードリーダー/ライターが接続されたパソコンで利用可能です。

❗画像の閲覧や加工・プリントには、別途画像アプリケーションソフト（JPEG対応）が必要です。

外部ストロボを使う場合（使用例：フジフイルム ストロボGA）

❶内蔵ストロボを閉じます。
❷外部ストロボをカメラのホットシューに取り付けます。

❶モードダイヤルを“ M ”に合わせます。
❷“ ストロボ ”メニューから“ 外部 ”を選択します。

❗外部ストロボはモードダイヤルが“ M ”の場合のみ使用できます。
❗連写設定時は、ストロボ充電能力および撮影条件により、連続発光できない場合があります。

❗内蔵ストロボと外部ストロボは、同時に使用できません。

❶マニュアル露出で絞り優先設定にします。
❷ストロボのメインスイッチをONにします。
❸充電が完了するとレディーランプが点灯し、撮影可能になります。

〈ストロボGAを使用したとき〉

●絞り“ F4 ”の場合、ストロボのモード切り換えスイッチを“ A1 ”にセットします。
●絞り“ F8 ”の場合、切り換えスイッチを“ A2 ”にセットします。

〈市販のストロボを使用したとき〉

ISO感度設定のできるオートストロボをおすすめします。

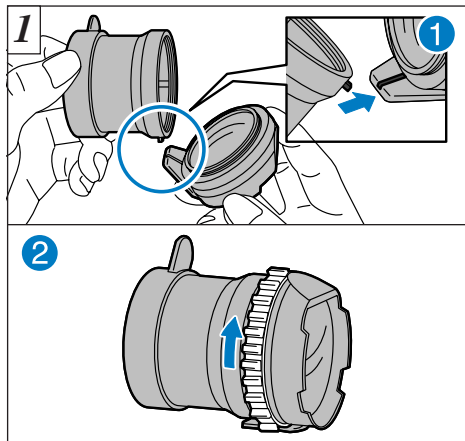
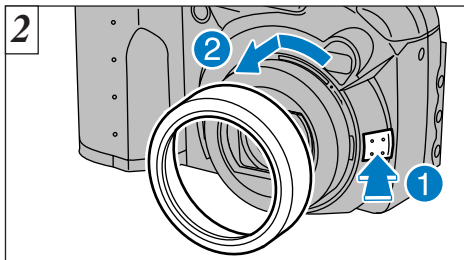
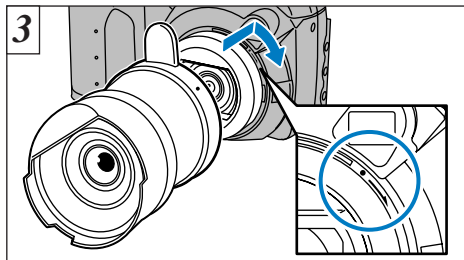
●ISO感度設定を160または200付近にセットします。撮影して明るさを確認の上、使用してください。

すべてのシャッタースピードにストロボが同調します。
●マニュアル露出ではシャッタースピードを1/100にセットすることをおすすめします。被写体が暗い場合、シャッターを高速側にセットすると背景が暗くなり、背景描写が表現できなくなります。
●低速側にセットすると手ブレ、被写体ブレが発生しやすくなります。
●絞り設定“ P ”では、ストロボGAとは相互制御機能を持っていません。絞り優先設定で絞りを“ F4 ”か“ F8 ”に固定しないと、適正露出が得られない場合があります。

4

ワイドコンバージョンレンズを使う場合

● アダプターリングとワイドコンバージョンレンズのセット「WL-FX29」
焦点距離を0.8倍に変換します（35mmカメラ換算で広角側28mm相当、望遠側84mm相当）。

● アダプターリング「AR-FX29」
市販のフィルター（口径43mm）を使用する場合は、「WL-FX29」に付属のアダプターリングを使用するか、アダプターリング「AR-FX29」をご購入ください。

❶ アダプターリングのラインと、ワイドコンバージョンレンズの形状を合わせます。
❷ ワイドコンバージョンレンズの取り付けねじを、矢印方向に回して取り付けます。

❶マウントロック解除ボタンを押しながら、❷マウントカバーを矢印方向に回して取り外します。

マウント部の位置合わせマーク（赤印）にアダプターリングのマーク（赤印）を合わせ、矢印方向にロックするまで回して取り付けます。

4

❗カメラの電源は、必ず切ってください。

❗ファインダー撮影はできません。液晶モニターを使用して撮影してください。

❗アダプターリングを取り付けた場合、レンズキャップは使用できません。

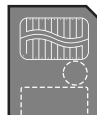
その他 別売アクセサリーの紹介（平成11年6月現在）

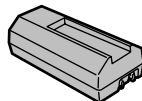
▶使いかたについては、お使いになるアクセサリーの「使用説明書」をご覧ください。

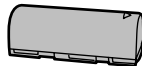
●スマートメディア™

以下の4種類がお使いいただけます。

●MG-4SB　：4MB、3.3V仕様　　●MG-8SB　：8MB、3.3V仕様
●MG-16SB　：16MB、3.3V仕様　　●MG-32SB　：32MB、3.3V仕様

＊3.3V仕様品の中には「3V」という表示のものがあります。

●バッテリーチャージャー BC-80

充電式バッテリーを短時間で充電します。充電時間は約1時間です（NP-80充電時）。（国内使用専用）

●充電式バッテリー NP-80

リチウムイオンタイプの高容量充電池です。

●ソフトケース SC-FX29

ファインピックス2900Z専用のケースです。カメラを持ち運ぶときに、ゴミやほこり、軽い衝撃からカメラを保護します（本革製）。

●ユーティリティーソフト SD-U3

画像の一覧表示と、簡単な画像加工が可能です。
また、一覧表示した画像を、市販の画像アプリケーションソフトにリンクして開くことが可能です。

正しくお使いいただくためのご注意

▶ご使用の前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みの上、正しくご使用ください。

■避けて欲しい場所

次のような場所での本機の使用および保管は避けてください。

- ●湿気やゴミ、ほこりの多いところ
- ●直射日光の当たるところや夏場の密閉した自動車内など、高温になるところ。極端に寒いところ
- ●振動の激しいところ
- ●油煙や湯気の当たるところ
- ●強い磁場の発生するところ（モーター、トランス、磁石のそばなど）
- ●防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品に長時間接触するところ

■砂がかからないようにしてください。

砂は本機の大敵です。海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因となるばかりか、修理できなくなることもあります。

■結露（つゆつき）にご注意

本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなどに、本機内部やレンズなどに水滴がつく（結露）ことがあります。このようなときは電源を切り、1時間ほどたってからお使いください。また、スマートメディアに水滴がつくことがあります。このようなときはスマートメディアを取り出し、しばらくたってからお使いください。

■長時間お使いにならないときは

本機を長時間お使いにならないときは、バッテリー・スマートメディアを取り外して保管してください。

■カメラのお手入れ

- ●レンズ、液晶モニター表面やファインダーなどの汚れはブロアーブラシなどでほこりを払い、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。それでも取れないときは、フジフイルムのレンズクリーニングペーパーにレンズクリーニングリキッドを少量つけて軽くふいてください。
- ●レンズ、液晶モニター表面やファインダーなどは傷つきやすいので、固い物でこすったりしないでください。
- ●カメラ本体は、乾いた柔らかい布などでふいてください。シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性のものをかけないでください。変質・変形したり、塗料がはげるなどの原因となります。

■海外で使うとき

- ●このカメラは国内仕様です。付属している保証書は、国内に限られています。旅行先で万一、故障・不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと、国内のサービス窓口にご相談ください。
- ●海外旅行などでチェックインする旅行カバンにカメラを入れないでください。空港での荷扱いによっては、大きな衝撃を受けて、外観には変化がなくても内部の部品の故障の原因となることがあります。

電源についてのご注意

バッテリーについてのご注意

このカメラは、充電式リチウムイオンバッテリーを使用しています。ご使用に際しては、以下の点にご注意ください。特に別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくご使用ください。

＊NP-80は出荷時にはフル充電されていません。お使いになる前に必ず充電してください。

■バッテリーの特性

●バッテリーは使わなくても、少しずつ放電しています。撮影の直前（1～2日前）に充電したバッテリーを用意してください。

●バッテリーを長く持たせるには、できるだけこまめに電源を切ることをおすすめします。

●寒冷地では、撮影できる枚数が少なくなります。充電済みの予備バッテリーをご用意ください。また、使用時間を長くするために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに取り付けてください。カイロをお使いになる場合は、直接バッテリーに触れないようにご注意ください。低温時に消耗した電池を使用すると、カメラが作動しない場合があります。

■充電について

●ACパワーアダプター AC-5V（付属または別売）を使用して、本体で充電ができます。使いきったバッテリーの充電時間は約8時間です。別売のバッテリーチャージャー BC-80を使用すると、約1時間でバッテリーを充電できます。

●このバッテリーは、充電の前に放電したり、使いきったりする必要はありません。

●充電が終わったあとや使用直後に、バッテリーが熱を持つことがありますが、異常ではありません。

●充電は周囲の温度が0℃～＋40℃の範囲で可能ですが、バッテリーの性能を十分に発揮させるためには、約＋10℃～＋30℃の範囲で充電してください。

●充電が完了したバッテリーを再充電しないでください。

■バッテリーの寿命について

常温で使用した場合、300回以上繰り返して使えます。使用できる時間が著しく短くなったときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

危険ですので、次のことにご注意ください

⚠バッテリーの金属部分に、他の金属が触れないようにしてください。

⚠火気に近づけたり、火の中に投げ込んだりしないでください。

⚠分解したり、改造したりしないでください。

壊れたり、寿命が短くなったりしますので、次のことにご注意ください

●強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。

●水にぬらさないようご注意ください。

バッテリーの特性に合わせて上手にお使いいただくために、次のことにご注意ください。

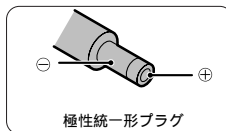
- 端子は常にきれいにしておいてください。
- 温度が上がらない、乾燥した場所に保管してください。長期間高温の場所に置いておくと寿命が短くなります。

長時間、バッテリーで使用していると、カメラ本体やバッテリーが熱を帯びますが、故障ではありません。長時間の撮影、再生にはACパワーアダプターをお使いください。

■小形充電式電池のリサイクルについて

このマークは小形充電式電池（リチウムイオンバッテリーなど）のリサイクルマークです。小形充電式電池は埋蔵量の少ない高価な希少資源を使用していますが、これらの金属はリサイクルして再利用できます。

このようにリサイクルすることは、ゴミを減らし、環境を守ることにつながります。ご使用済みの小形充電式電池の廃棄に際しては、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープをはって、小形充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

ACパワーアダプターについてのご注意

極性統一形プラグ

本機には、必ず専用のACパワーアダプター AC-5V（付属、EIAJ規格・極性統一形プラグ付き）をお使いください。

AC-5V以外のACパワーアダプターをお使いになると本機の故障の原因となることがあります。

- ACパワーアダプターの接点部には、他の金属が触れないようにしてください。ショートする危険があります。
- “DIGITAL”端子には差し込まないでください。故障の原因となることがあります。
- バッテリー動作中にACパワーアダプターを差し込まないでください。一度電源を切ってから差し込んでください。
- ACパワーアダプター動作中にバッテリーを差し込まないでください。一度電源を切ってから差し込んでください。
- バッテリーがない状態でACパワーアダプターを抜くと、日時の保持はしません。日時を設定し直してください。
- バッテリー充電中にACパワーアダプターを抜くと、ファインダーランプが赤色点滅することがありますが、故障ではありません。

スマートメディアTMについてのご注意

■スマートメディアについて

デジタルカメラ用に開発された、新しい画像記録媒体SmartMedia（スマートメディア）です。スマートメディアの中には、半導体メモリー（NAND型フラッシュメモリー）が内蔵されており、このメモリーにデジタル化された画像データが記録されます。
記録は電気的に行われますので、一度記録した画像データを消去したり、再び記録することができます。

■データ保持について

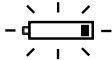
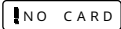
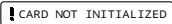
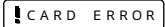
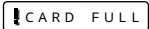
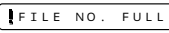
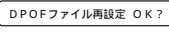
以下の場合、記録したデータが消滅（破壊）することがあります。記録したデータの消滅（破壊）については、弊社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。
＊お客様または第三者がスマートメディアの使いかたを誤ったとき
＊スマートメディアが静電気・電気的ノイズの影響を受けたとき
＊スマートメディアに記録動作中・消去（フォーマット）動作中にスマートメディアを取り出したり機器の電源を切ったとき

大切なデータは別のメディア（MOディスク、フロッピーディスク、ハードディスクなど）にコピーして、バックアップ保存されることをおすすめします。

■取扱上のご注意

●カードをカメラに入れるときは、まっすぐに挿入してください。
●スマートメディアの記録中・消去（フォーマット）中は、絶対にスマートメディアを取り出したり、機器の電源を切ったりしないでください。スマートメディアが破壊されることがあります。
●指定された以外のスマートメディアはお使いになれません。無理にご使用になるとカメラの故障の原因となります。
●スマートメディアは精密電子機器です。曲げたり、強い力やショックを加えたり、落としたりしないでください。
●強い静電気・電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用・保管は避けてください。
●高温多湿の場所、または腐食性のある環境下でのご使用・保管は避けてください。
●スマートメディアの接触面（コンタクトエリア）にゴミや異物がつかないように、また触らないようにご注意ください。汚れは乾いた柔らかい布などでふいてください。
●スマートメディアの持ち運びや保管時は、静電気による影響を避けるため、必ず専用の静電気防止ケースに入れてください。また、収納ケースがある場合は収納ケースに入れてください。
●静電気を帯びたスマートメディアをカメラに入れると、カメラが誤作動する場合があります。このような場合はいったん電源を切ってから、再び電源を入れ直してください。
●ズボンのポケットなどに入れないでください。座っ

たときなどに大きな力が加わり、壊れる恐れがあります。

- 長時間お使いになったあと、取り出したスマートメディアが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。
- スマートメディアには寿命があり、長期間使用するうちに書き込みや消去ができなくなります。このときは新しいものをお買い求めください。
- インデックスエリアには、付属のインデックスラベルをはってください。市販のラベルなどは、はらないでください。カードの出し入れの際、故障の原因になります。
- インデックスラベルは、ライトプロテクトエリアに掛からないように、はってください。
- 万一、当社の製造上の原因による初期品質不良がありました場合には、同数の新しいカードとお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。

■スマートメディアをパソコンで使用する場合のご注意

- パソコンで使用したあとのスマートメディアを使って撮影する場合、スマートメディアのフォーマットはカメラで行ってください。
- スマートメディアをカメラでフォーマットして撮影・記録すると、自動的にフォルダーが作成されます。画像データは、このフォルダー内に記録されます。
- パソコンでスマートメディアのフォルダー名、ファイル名の変更・消去などの操作を行わないでください。スマートメディアがカメラで使用できなくなることがあります。
- スマートメディア上の画像データの消去はカメラで行ってください。
- 画像データを編集する場合は、画像データをハードディスクなどにコピーし、コピーした画像データを編集してください。
- パソコンからスマートメディアに画像データを記録または消去する場合、あるいはスマートメディアに本カメラで記録された画像を読み出す場合は、弊社製のソフトウェア Data Transfer Software PICTURE SHUTTLE（別売のインターフェースバリューセットに付属）をご使用ください。

■主な仕様

形　式	デジタルカメラ用イメージメモリーカード SmartMedia（スマートメディア）
動作電圧	3.3V
使用条件	温度 0℃〜＋40℃ 湿度 80%以下（結露しないこと）
外形寸法	37mm×45mm×0.76mm（幅/高さ/厚み）

警告表示

▶液晶モニターに表示される警告には、以下のものがあります。

警告表示		警告内容	処　置
液晶モニター	液晶表示パネル		
(電池マーク点滅)	(電池マーク点滅)	カメラの電池の容量が少ない。	電池を交換するか、充電してください。
NO CARD	- - -	スマートメディアが入っていない、または入れている向きが間違っている。	スマートメディアを入れるか、スマートメディアの向きを直してください。
CARD NOT INITIALIZED	Err	スマートメディアがフォーマット（初期化）されていない。	スマートメディアをフォーマットしてください。
CARD ERROR	Err	スマートメディアの接触面が汚れている。 スマートメディアが壊れている。 スマートメディアのフォーマットが異常。	スマートメディアの接触面を、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります。それでもERRORの場合はスマートメディアを交換してください。
CARD FULL	FUL	• スマートメディアに空き容量がなく、これ以上記録できない。 • DPOFで330コマ以上プリント指定した。	画像を消去するか、空き容量のあるスマートメディアを使用してください。
PROTECTED CARD	PPP	スマートメディアが誤記録防止状態になっている。	誤記録防止状態になっていないスマートメディアを使用してください。
FRAME ERROR	—	正常に記録されていないデータを再生した。	再生することはできません。
UNMATCHED DATA	—	カメラで記録したデータ以外のコマを再生した。	再生することはできません。

警告表示		警告内容	処　　置
液晶モニター	液晶表示パネル		
!FILE NO. FULL	FL 1	コマNo.が999―9999に達している。	コマNo.メモリー機能をOFFにして、フォーマットしたスマートメディアに撮影してください。
(手ブレ警告マーク)	—	シャッター速度が遅く、手ブレを発生しやすい状態。	ストロボを強制発光にしてください。または三脚を使用してください。
!PROTECT	—	プロテクトされているコマを消去しようとした。	プロテクトを解除してください。
⚠ AF	—	AF（オートフォーカス）がうまく働かない。	• 暗い場合は被写体から1.5m以上離れて撮影してください。 • AFロック撮影をしてください。
!CANT EXECUTE	—	• エフェクト機能を実行できない。 • リサイズを実行できない。 • マップビューワー機能を実行できない。	• サポートしていない画像ファイルのため、実行できません。 • 地図ファイルを正しくスマートメディアに記録してください。
!PRINT ORDER FILE	—	DPOF設定されたファイルです。	DPOF設定を解除してください。その後、プロテクトを解除できます。
DPOFファイル再設定 OK？	—	DPOFファイルにエラーがあります。または、他の機器で設定したDPOFファイルです。	DPOFファイルを新しく作成し、DPOF設定をすべてやり直す場合は“メニュー/実行”ボタンを押してください。
⚠ AE	—	マニュアル露出で“F4、AUTO”に設定した状態で露出オーバーになります。	マニュアル露出設定を“P（プログラムオート）”か、絞り優先AE設定を“F8、AUTO”に設定してください。

故障とお考えになる前に

▶故障と思う前に、もう一度お調べください。

症　　状	原　　因	処　　置
電源が入らない。	●バッテリーが消耗している。 ●ACパワーアダプターの電源プラグがコンセントから外れている。	●バッテリーを充電する。または、充電済みのバッテリーと交換する。 ●電源プラグをコンセントに差し込む。
電源が途中で切れる。	●バッテリーが消耗している。	●充電済みのバッテリーと交換する。
バッテリーの消耗が早い。	●温度が極端に低いところで使っている。 ●端子が汚れている。 ●バッテリーの寿命。	●バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに取り付ける。 ●バッテリーの端子部分を乾いたきれいな布でふいてください。 ●充電済みの新しいバッテリーと交換する。
シャッターボタンを押しても撮影できない。	●スマートメディアが入っていない。 ●スマートメディアに空き容量がなく、これ以上記録できない。 ●スマートメディアが誤記録防止状態になっている。 ●スマートメディアがフォーマットされていない。 ●スマートメディアの接触面が汚れている。 ●スマートメディアが壊れている。 ●オートパワーオフになり、電源が入っていない。 ●バッテリーが消耗している。	●スマートメディアを入れる。 ●新しいスマートメディアを入れるか、コマを消去する。 ●誤記録防止状態を解除する。 ●フォーマットする。 ●スマートメディアの接触面を乾いたきれいな布でふく。 ●新しいスマートメディアを入れる。 ●電源を入れる。 ●充電済みのバッテリーと交換する。
再生画像がぼやけている。	●レンズが汚れている。	●レンズを清掃する。

症　　状	原　　因	処　　置
ストロボ撮影ができない。	●モードダイヤルの設定位置がずれている。 ●ストロボ発光禁止モードになっている。 ●充電中にシャッターボタンを押した。	●モードダイヤルを正しい位置に設定する。 ●ストロボをオート、赤目軽減または強制発光モードにする。 ●充電が完了してからシャッターボタンを押す。
ストロボの充電ができない。	●記録できるスマートメディアが入っていない。 ●ストロボ発光禁止モードになっている。 ●バッテリーが消耗している。	●新しいスマートメディアを入れる、コマを消去する、誤記録防止状態を解除する。 ●ストロボをオート、赤目軽減または強制発光モードにする。 ●充電済みのバッテリーと交換する。
ストロボが発光したのに再生画面が暗い。	●被写体が遠い。 ●ストロボ調光センサーに指がかかっていた。	●被写体に近づく。 ●正しくカメラを構えてください。
スマートメディアのフォーマットができない。	●スマートメディアが誤記録防止状態になっている。	●誤記録防止状態を解除する（ライトプロテクトシールをはがす）。
全コマの消去ができない。	●コマがプロテクトされている。	●プロテクトを解除する。
カメラのボタンやスイッチを操作しても作動しない。	●カメラの誤作動 ●モードダイヤルの設定位置がずれている。	●電源（バッテリー）をいったん取り外して、再び取り付け直してから操作する。 ●モードダイヤルを正しい位置に設定する。
“表示”ボタンを操作しても液晶モニターに画像が表示されない。	●モードダイヤルの設定位置がずれている。	●モードダイヤルを正しい位置に設定する。
ピントが合わない。オートフォーカスが作動しない。	●“ MF ”（マニュアルフォーカス）になっている。	●“ MF ”を解除する

主な仕様

システム

●型式

デジタルカメラ

●記録メディア

スマートメディア(3.3V仕様)

●スマートメディア標準撮影枚数

＊撮影枚数は被写体により多少の増減があります。かつ、撮影枚数はスマートメディアの容量が大きくなるほど、標準枚数との差が大きくなる場合があります。

画質モード	画像圧縮率	画像1枚のデータサイズ*	MG-4S (4MB)	MG-8S (8MB)	MG-16S (16MB)	MG-32S (32MB)
Hi	−	4.26MB	0	1	3	7
	−	610KB	6	12	24	49
FINE	約1/5	約860KB	4	8	18	36
	約1/4	約160KB	23	46	89	180
NORMAL	約1/10	約430KB	8	17	34	70
	約1/8	約90KB	44	89	163	330
BASIC	約1/20	約220KB	17	35	70	141
	約1/16	約50KB	69	141	246	496

*上段：1,800×1,200ピクセル　*下段：640×480ピクセル

●記録方式

DCF準拠(Exif Ver.2.1 JPEG準拠/TIFF-YC [非圧縮])/ DPOF対応

●記録画素数

1,800×1,200ピクセル/640×480ピクセル
1,280×1,024ピクセル(拡大撮影、リサイズ時のみ)

●撮像素子

1/2インチ正方画素インターライン方式CCD、原色フィルター採用　総画素数：約230万

●撮像感度

ISO 125相当

●レンズ

フジノン光学式3倍ズームレンズ

●焦点距離

7.4mm〜22mm(35mmカメラ換算35mm〜105mm相当)

●ファインダー

実像式光学ファインダー、視野率：約80%

●露出制御

TTL64分割測光、プログラムAE(マニュアル撮影時、露出補正可能)

●ホワイトバランス

オート(マニュアル撮影時、7ポジション選択可能)

●撮影可能範囲

標準　：約90cm〜無限遠
マクロ：約25cm〜90cm

●電子シャッター(メカニカルシャッター併用)

1/4秒〜1/2,000秒(AE時)
3秒〜1/1,000秒(マニュアル露出時)

●絞り

F3.3〜F5.0/F7.6〜F11自動切り換え

●セルフタイマー

タイマー時間約10秒

●**消去方式**
1コマ消去・全コマ消去・フォーマット（初期化）
●**液晶モニター**
2インチ　13万画素低温ポリシリコンTFT
●**ストロボ**
調光センサーによるオートストロボ
撮影可能距離　広角：約0.4m〜3.5m
望遠：約0.4m〜2.5m
発光モード：オート/赤目軽減/強制発光/発光禁止

入・出力端子

●**VIDEO出力端子**
ミニ（φ3.5mm）ピンジャック（1）
●**DIGITAL（RS-232C、RS-422）端子**
ステレオミニミニ（φ2.5mm）ジャック（1）
パソコンとのデータの送受信
●**DC入力端子**
専用ACパワーアダプター AC-5V接続

電源部、その他

●**電源**
充電式バッテリー NP-80（付属または別売）または専用ACパワーアダプター AC-5V（付属または別売）使用
●**バッテリー撮影可能枚数**
＊常温でストロボ使用率50％の場合の、連続して撮影できる枚数のめやすです。ただし、カメラの使用環境温度やバッテリー充電量のバラツキによる変動があります。

電池の種類	液晶モニターON状態	液晶モニターOFF状態
バッテリー（NP-80）	約80枚*	約200枚*

*バッテリーをフル充電した場合

●**使用条件**
温度0℃〜＋40℃ 湿度80％以下（結露しないこと）
●**本体外形寸法**
129.5mm×68.5mm×59.8mm（幅/高さ/奥行き）（付属品、突起部含まず）
●**本体質量**
約345g（付属品、バッテリー、スマートメディア含まず）
●**撮影時質量**
約385g（バッテリー、スマートメディア含む）
●**付属品**
5ページをご覧ください。
●**別売アクセサリー**
91、93〜102ページをご覧ください。

＊仕様・性能は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
使用説明書の記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。
＊液晶モニターは非常に高精密度の技術で作られておりますが、0.01％以下の画素で点灯しないものや、常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。

用語の解説

AF・AEロック：このカメラでは、シャッターボタンを半押しするとピントと露出を固定（AF・AEロック）します。画面の端の被写体にピントを合わせたり、露出を決めてから構図を変えたい場合には、AF・AEロックをしてから構図を変えて撮影すると、きれいに撮影できます。

EV：露出を表す数値で、被写体の明るさとフィルムやCCDなどの感度によって決まります。被写体が明るければ数値は大きくなり、暗ければ数値は小さくなります。デジタルカメラは被写体の明るさの変化に対して、絞りやシャッター速度を調整することによりCCDに与える光量を一定にしています。
CCDに与えられる光量が2倍になるとEV値は＋1、半分になるとEV値は－1変化します。

Exifファイル形式：Exif（イグジフ）は、日本電子工業振興協会（JEIDA）にて承認されたデジタルスチルカメラ用のフルカラー静止画像フォーマットです。TIFFやJPEGとの互換性があり、一般的な画像処理ソフトウェアで取り扱うことができます。サムネイル画像やカメラ情報の記録方法も規定されています。

JPEG：JPEG（ジェイペグ）は、カラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率が選択できますが、圧縮率が高くなるほど伸長（画像の復元）したときの画質は劣化します。

オートパワーオフ機能：電池の消耗や、ACパワーアダプター接続時のムダな電力消費を防ぐため、約2分間何の操作もしないと自動的に電源をOFFします。
- オートプレイ時やPCモード時、セットアップでオートパワーオフを無効にした場合は、オートパワーオフしません。

ホワイトバランス：人間の目にはどんな照明のもとでも、白い被写体は白に見えるという順応性があります。これに対してデジタルカメラなどでは、被写体周辺の照明光の色に合わせて調整を行って初めて、白い被写体が白く撮影されます。この調整をホワイトバランスを合わせるといいます。ホワイトバランスを自動的に合わせる機能を**オートホワイトバランス**といいます。

アフターサービスについて

保証書

- 保証書はお買上げ店で所定事項の記入、および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買上げ日より1年間です。

アフターサービス

■調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

■それでも調子が悪いときはサービスステーションへ

お買上げ店、またはフジサービスステーションにご相談ください。

■保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

■修理部品の保有期間

本機の補修用部品は、製造打ち切り後8年をめやすに保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。

■修理ご依頼に際してのご注意

- 保証規定による修理をお申し出になる場合には、必ず保証書を添付してください。
- お買上げ店やフジサービスステーションの窓口で、ご指定の修理箇所、故障内容を詳しくご説明ください。
- 修理箇所のご指定のないとき、弊社では各部点検をはじめ品質、性能上必要と思われるすべての箇所を修理しますので、料金が高くなることがあります。
- 修理料金が高く見込まれる修理のときは、「○○○○円以上は連絡してほしい」と料金をご指定ください。ご指定のないときは、修理をすすめさせていただきます。
- 修理に関係のない付属品類は、紛失などの事故を避けるため、修理品から取り外してお手もとに保管してください。
- 修理のために製品を郵送される場合は、ご購入時の外箱に入れてしっかり包装し、必ず書留小包でお送りください。
- 修理期間は故障内容により多少違いますが、厳重な調整検査を行いますので普通修理品の場合はフジサービスステーションで、お預かりしてから通常7～14日位をご予定ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

■型名　　　：ファインピックス2900Z
■故障の状況：できるだけ詳しく
■ご購入年月日